

平成 28 年
市民アンケート調査結果
報 告 書

平成 28 年 6 月
八 戸 市

< 目 次 >

1. 市民アンケート調査概要	…	P1
(1) 調査目的	…	P1
(2) 調査対象	…	P1
(3) 調査項目	…	P1
(4) 調査方法	…	P1
(5) 調査時期	…	P1
(6) 回収状況	…	P1
2. 単純集計結果	…	P2
(1) 回答者の属性	…	P2
(2) 八戸市のまちづくり	…	P3
①八戸市が取り組んでいるまちづくりに対する現状評価	…	P3
②八戸市に対する愛着や誇り	…	P10
3. クロス集計結果	…	P11
(1) クロス集計の考え方	…	P11
(2) 男女別年齢層別のまちづくりに対する現状評価	…	P12
(3) 属性別の八戸市に対する愛着や誇り	…	P17
①八戸市に対する愛着	…	P17
②八戸市に対する誇り	…	P20
4. 自由回答の結果	…	P23
(1) 自由回答の掲載基準	…	P23
(2) 分類・整理の方法	…	P23
(3) 分類・整理の結果	…	P23
(4) 主な意見	…	P24
資料編. アンケート調査票	…	P26

1. 市民アンケート調査概要

(1) 調査目的

- ・この調査は、第6次八戸市総合計画で重点的かつ分野横断的に推進する施策について、市民の皆様
の考えや意見を伺い、施策の進行管理の基礎資料として活用することを目的に実施した。

(2) 調査対象

- ・以下の①～③、計1,132人を対象とした。
 - ①八戸市在住の満18歳以上の市民：1,000人
 - ②市政モニター：100人
 - ③総合計画の策定に携わった有識者：32人
- ・なお、「①八戸市在住の満18歳以上の市民」1,000人については、住民基本台帳を基に地域別人口
の割合を考慮して、無作為抽出（男女別、年齢階層別）した。

(3) 調査項目

- ・八戸市が取り組んでいるまちづくりに対する現状評価
- ・八戸市に対する愛着や誇り
- ・回答者の属性

(4) 調査方法

- ・郵送配布及び郵送回収により実施した。
- ・また、回収率を高めるため、調査票等の発送から概ね1週間後に、お礼状兼督促状を配布した。

(5) 調査時期

- ・調査票等の発送：平成28年1月29日（金）
- ・お礼状兼督促状の発送：平成28年2月8日（月）
- ・調査票の回収：平成28年1月30日（土）～平成28年2月18日（木）

(6) 回収状況

- ・配布数1,132票に対して、回収数737票、回収率は65.1%となった。

配布数	回収数	回収率
1,132票	737票	65.1%

（参考）過去に実施した市民アンケートの回収状況

※H17 第5次総合計画基本構想・前期推進計画策定時の市民アンケート調査：回収率47.4%

※H22 第5次総合計画後期推進計画策定時の市民アンケート調査：回収率60.7%

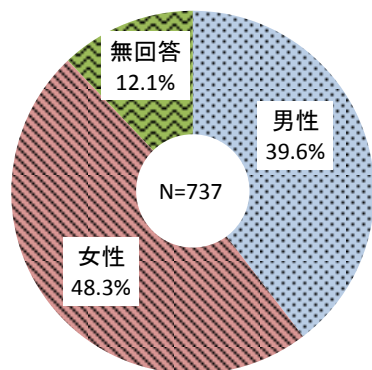
※H26 第6次総合計画策定時の市民アンケート調査：回収率54.1%

2. 単純集計結果

(1) 回答者の属性

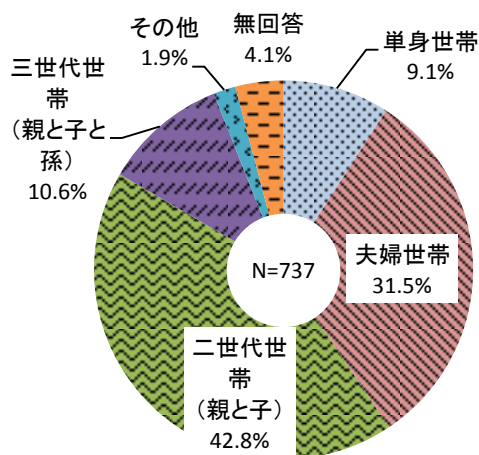
【性別】

- ・女性が約 48%と男性より多い。



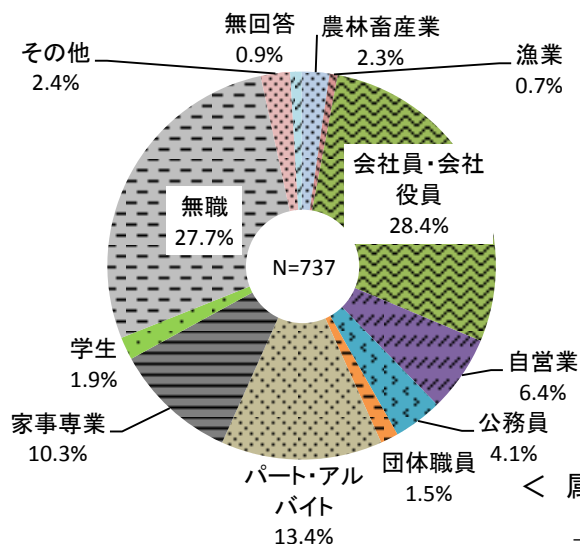
【家族構成】

- ・二世帯世帯が約 43%と最も高く、夫婦世帯が約 32%、三世帯世帯が約 11%、単身世帯が約 9%となっている。



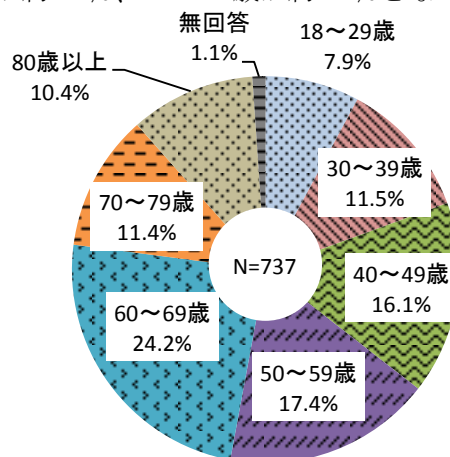
【職業】

- ・会社員・会社役員と無職が約 28%、パート・アルバイトが約 13%となっている。



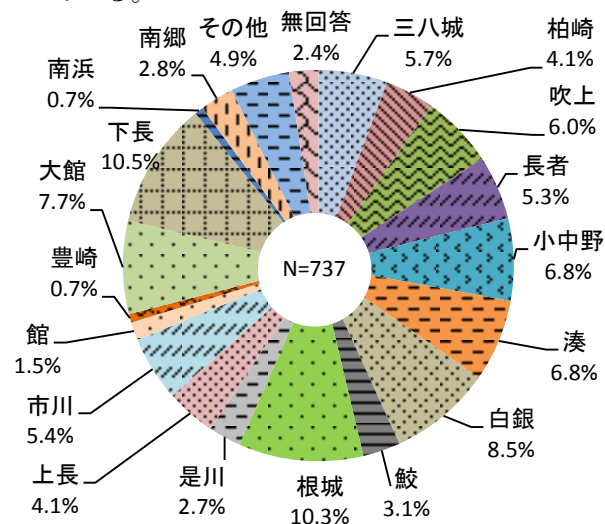
【年齢】

- ・60～69歳が約 24%と最も高く、次いで、50～59歳が約 17%、40～49歳が約 16%となっている。



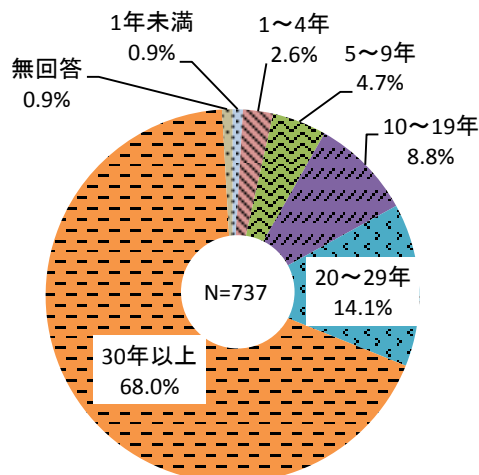
【お住まいの地区】

- ・下長地区が約 11%と最も高く、根城地区が約 10%、白銀地区が約 9%、大館地区が約 8%となっている。



【居住年数】

- ・30年以上が約 68%、20～29年が約 14%となっており、居住年数 20年以上が 8割を占めている。



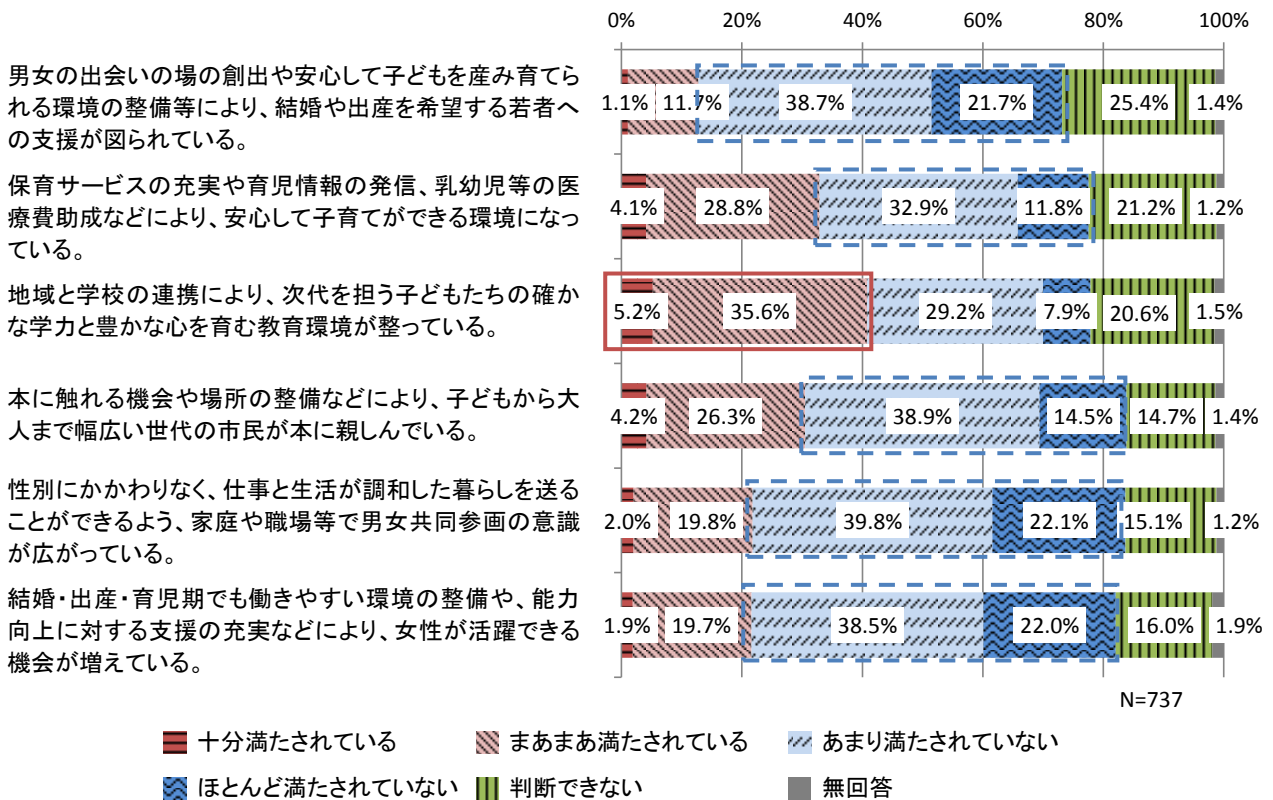
< 属性 >

(2) 八戸市のまちづくり

①八戸市が取り組んでいるまちづくりに対する現状評価

○子育て・教育・男女共同参画に関する分野

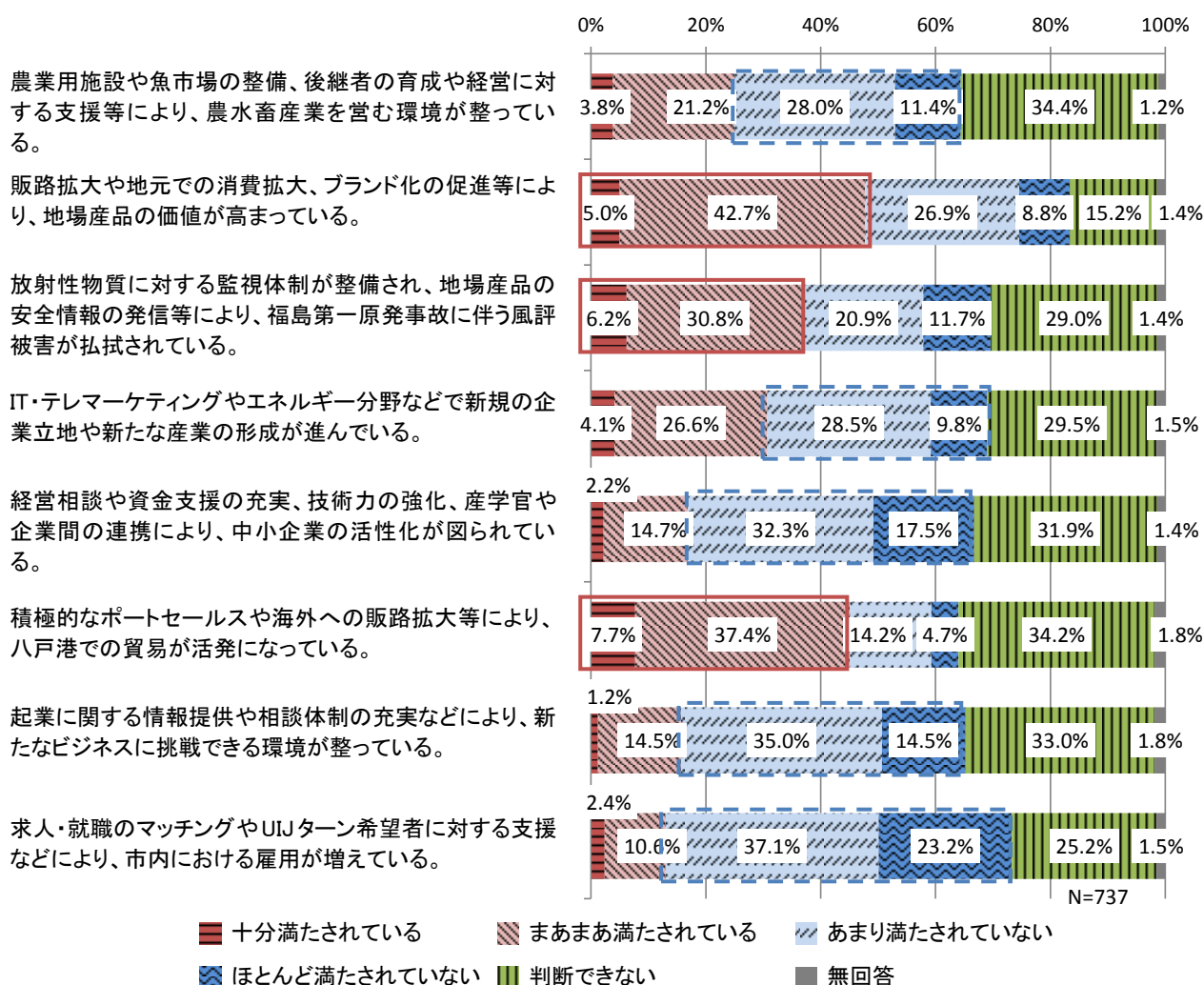
- ・現状評価について、「十分満たされている」と「まあまあ満たされている」を合わせた満足割合が高い回答をみると、「地域と学校の連携により、次代を担う子どもたちの確かな学力と豊かな心を育む教育環境が整っている」が約 41%となっている。
- ・一方、「あまり満たされていない」と「ほとんど満たされていない」を合わせた不満割合が高い回答をみると、「性別にかかわらず、仕事と生活が調和した暮らしを送ることができるよう、家庭や職場等で男女共同参画の意識が広がっている」が約 62%と高く、次いで、「男女の出会いの場の創出や安心して子どもを産み育てられる環境の整備等により、結婚や出産を希望する若者への支援が図られている」と「結婚・出産・育児期でも働きやすい環境の整備や、能力向上に対する支援の充実などにより、女性が活躍できる機会が増えている」が約 61%、「本に触れる機会や場所の整備などにより、子どもから大人まで幅広い世代の市民が本に親しんでいる」が約 53%、「保育サービスの充実や育児情報の発信、乳幼児等の医療費助成などにより、安心して子育てができる環境になっている」が約 45%となっている。
- ・また、本分野については、選択肢の中で「判断できない」の割合が最も高くなっている回答はみられない。



< 子育て・教育・男女共同参画に関する分野の現状評価 >

○産業・雇用に関する分野

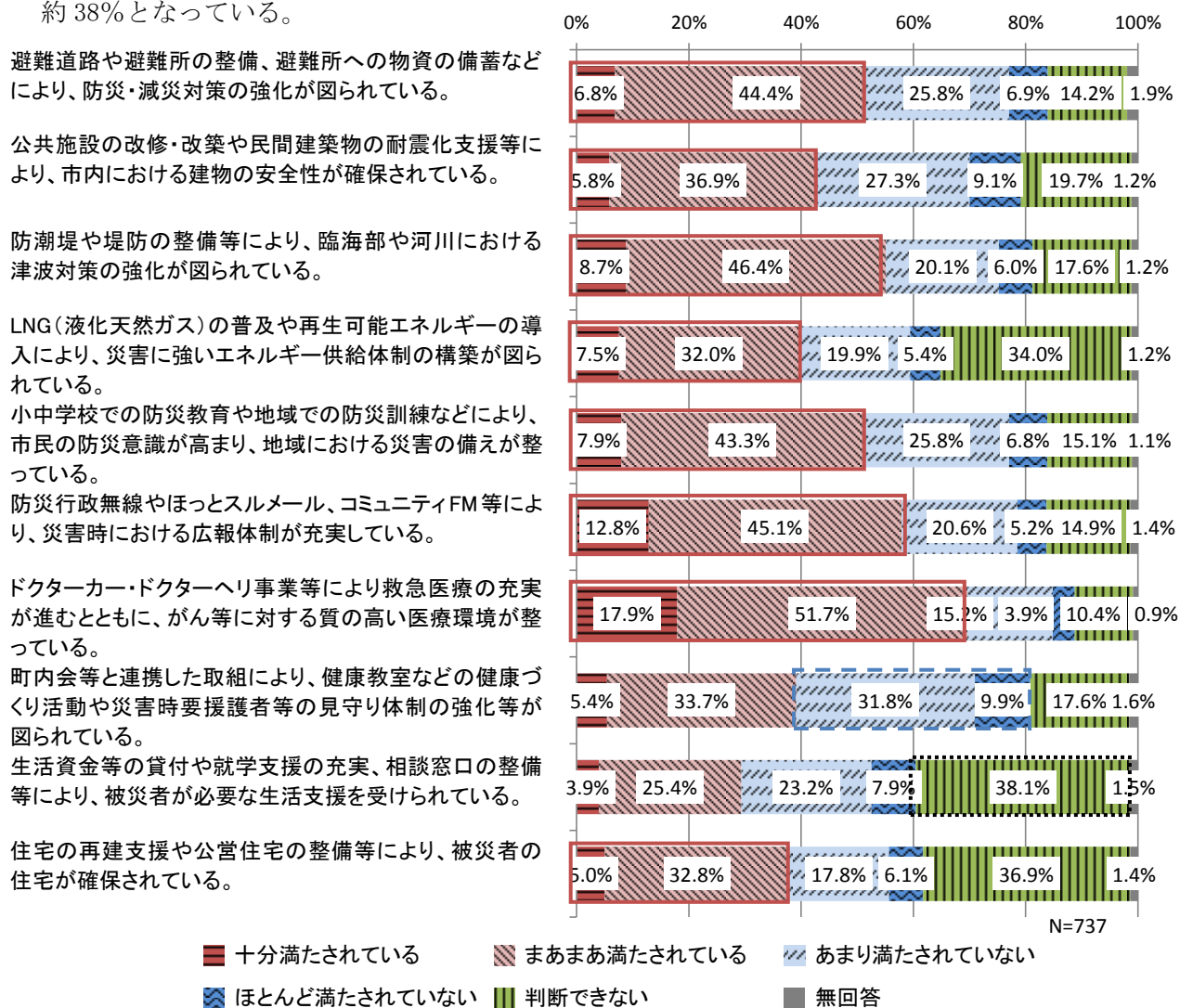
- ・現状評価について、「十分満たされている」と「まあまあ満たされている」を合わせた満足割合が高い回答をみると、「販路拡大や地元での消費拡大、ブランド化の促進等により、地場産品の価値が高まっている」が約 48%と高く、次いで、「積極的なポートセールスや海外への販路拡大等により、八戸港での貿易が活発になっている」が約 45%、「放射性物質に対する監視体制が整備され、地場産品の安全情報の発信等により、福島第一原発事故に伴う風評被害が払拭されている」が約 37%となっている。
- ・一方、「あまり満たされていない」と「ほとんど満たされていない」を合わせた不満割合が高い回答をみると、「求人・就職のマッチングや UIJ ターン希望者に対する支援などにより、市内における雇用が増えている」が約 60%と高く、次いで、「経営相談や資金支援の充実、技術力の強化、産学官や企業間の連携により、中小企業の活性化が図られている」と「起業に関する情報提供や相談体制の充実などにより、新たなビジネスに挑戦できる環境が整っている」が約 50%、「農業用施設や魚市場の整備、後継者の育成や経営に対する支援等により、農水畜産業を営む環境が整っている」が約 39%、「IT・テレマーケティングやエネルギー分野などで新規の企業立地や新たな産業の形成が進んでいる」が約 38%となっている。
- ・また、本分野については、選択肢の中で「判断できない」の割合が最も高くなっている回答はみられない。



< 産業・雇用に関する分野の現状評価 >

○防災・健康・福祉に関する分野

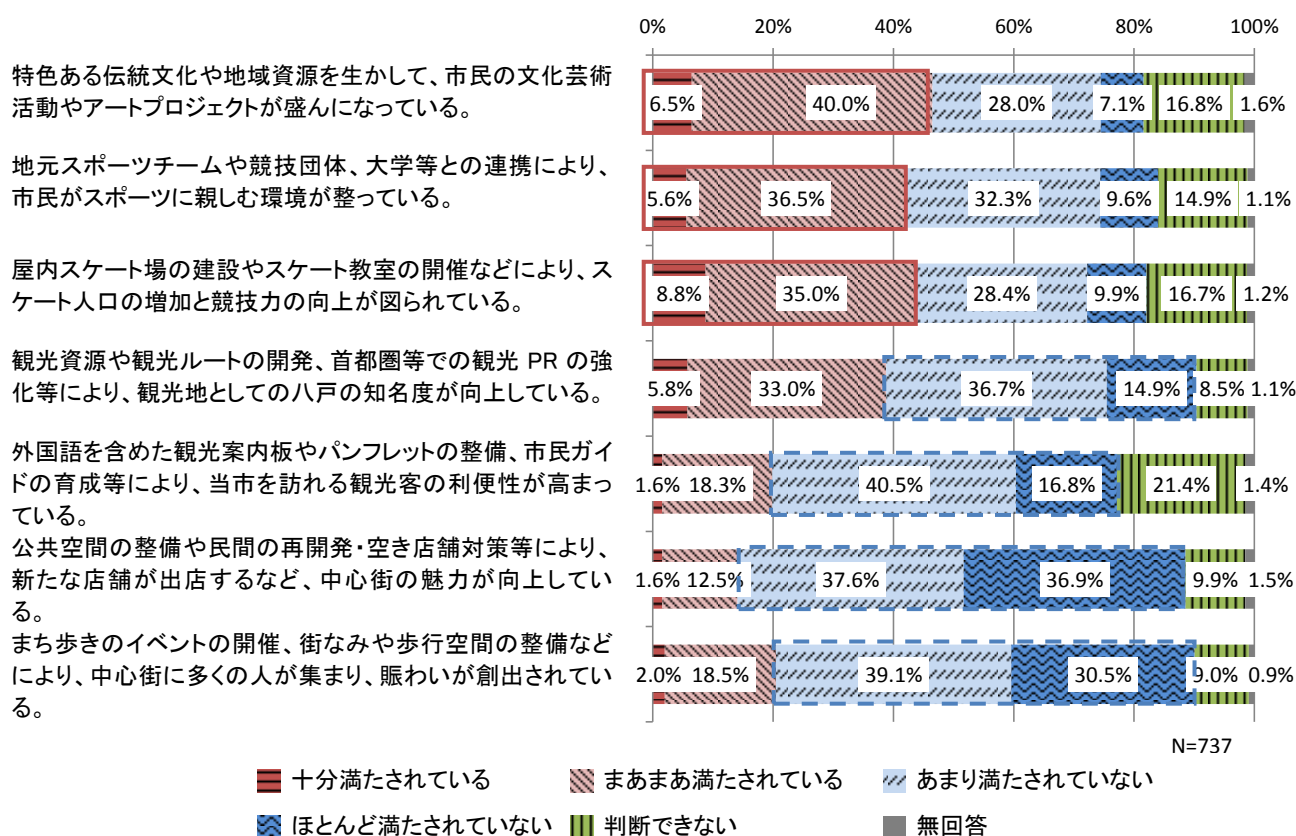
- ・現状評価について、「十分満たされている」と「まあまあ満たされている」を合わせた満足割合が高い回答をみると、「ドクターカー・ドクターヘリ事業等により救急医療の充実が進むとともに、がん等に対する質の高い医療環境が整っている」が約 70%と高く、次いで、「防災行政無線やほっとスルメール、コミュニティFM等により、災害時における広報体制が充実している」が約 58%、「防潮堤や堤防の整備等により、臨海部や河川における津波対策の強化が図られている」が約 55%、「避難道路や避難所の整備、避難所への物資の備蓄などにより、防災・減災対策の強化が図られている」と「小中学校での防災教育や地域での防災訓練などにより、市民の防災意識が高まり、地域における災害の備えが整っている」が約 51%、「公共施設の改修・改築や民間建築物の耐震化支援等により、市内における建物の安全性が確保されている」が約 43%、「LNG（液化天然ガス）の普及や再生可能エネルギーの導入により、災害に強いエネルギー供給体制の構築が図られている」が約 40%、「住宅の再建支援や公営住宅の整備等により、被災者の住宅が確保されている」が約 38%となっている。
- ・一方、「あまり満たされていない」と「ほとんど満たされていない」を合わせた不満割合が高い回答をみると、「町内会等と連携した取組により、健康教室などの健康づくり活動や災害時要援護者等の見守り体制の強化等が図られている」が約 42%となっている。
- ・また、選択肢の中で「判断できない」の割合が最も高くなっている回答をみると、「生活資金等の貸付や就学支援の充実、相談窓口の整備等により、被災者が必要な生活支援を受けられている」が約 38%となっている。



< 防災・健康・福祉に関する分野の現状評価 >

○文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野

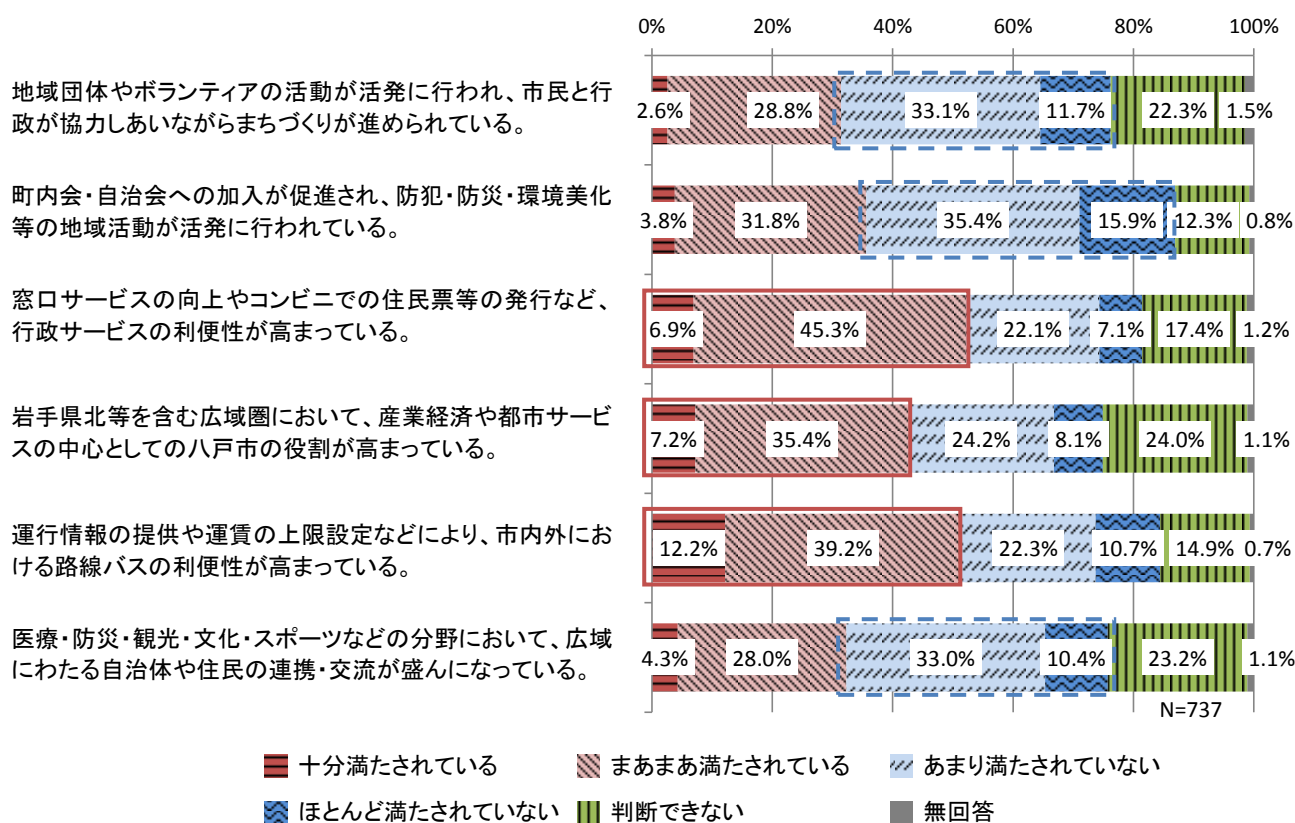
- ・現状評価について、「十分満たされている」と「まあまあ満たされている」を合わせた満足割合が高い回答をみると、「特色ある伝統文化や地域資源を生かして、市民の文化芸術活動やアートプロジェクトが盛んになっている」が約 47%と高く、次いで、「屋内スケート場の建設やスケート教室の開催などにより、スケート人口の増加と競技力の向上が図られている」が約 44%、「地元スポーツチームや競技団体、大学等との連携により、市民がスポーツに親しむ環境が整っている」が約 42%となっている。
- ・一方、「あまり満たされていない」と「ほとんど満たされていない」を合わせた不満割合が高い回答をみると、「公共空間の整備や民間の再開発・空き店舗対策等により、新たな店舗が出店するなど、中心街の魅力が向上している」が約 75%と高く、次いで、「まち歩きのイベントの開催、街なみや歩行空間の整備などにより、中心街に多くの人が集まり、賑わいが創出されている」が約 70%、「外国語を含めた観光案内板やパンフレットの整備、市民ガイドの育成等により、当市を訪れる観光客の利便性が高まっている」が約 57%、「観光資源や観光ルートの開発、首都圏等での観光 PR の強化等により、観光地としての八戸の知名度が向上している」が約 52%となっている。
- ・また、本分野については、選択肢の中で「判断できない」の割合が最も高くなっている回答はみられない。



< 文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野の現状評価 >

○市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野

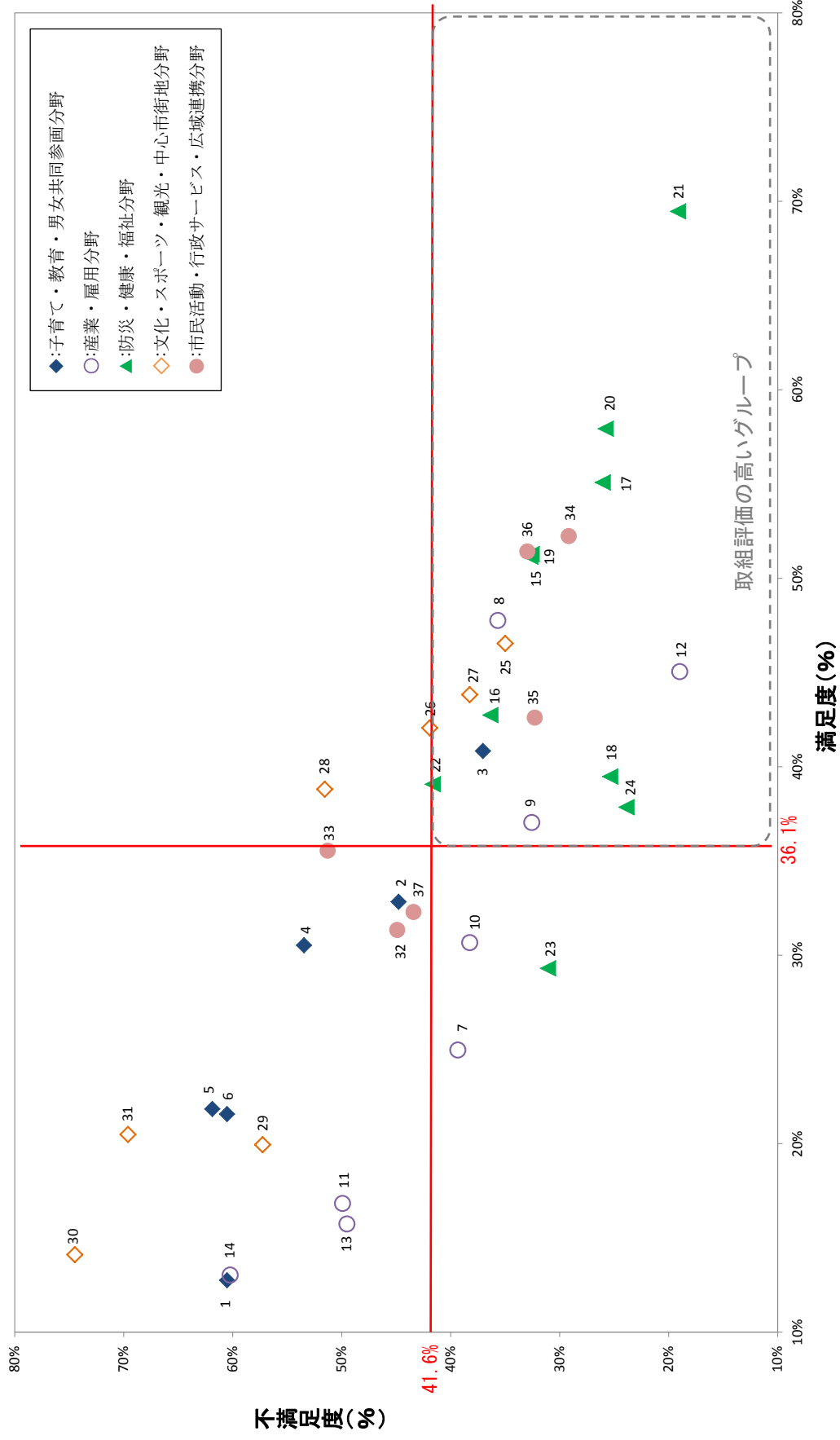
- ・現状評価について、「十分満たされている」と「まあまあ満たされている」を合わせた満足割合が高い回答をみると、「窓口サービスの向上やコンビニでの住民票等の発行など、行政サービスの利便性が高まっている」が約 52%と高く、次いで、「運行情報の提供や運賃の上限設定などにより、市内外における路線バスの利便性が高まっている」が約 51%、「岩手県北等を含む広域圏において、産業経済や都市サービスの中心としての八戸市の役割が高まっている」が約 43%となっている。
- ・一方、「あまり満たされていない」と「ほとんど満たされていない」を合わせた不満割合が高い回答をみると、「町内会・自治会への加入が促進され、防犯・防災・環境美化等の地域活動が活発に行われている」が約 51%と高く、次いで、「地域団体やボランティアの活動が活発に行われ、市民と行政が協力しあいながらまちづくりが進められている」が約 45%、「医療・防災・観光・文化・スポーツなどの分野において、広域にわたる自治体や住民の連携・交流が盛んになっている」が約 43%となっている。
- ・また、本分野については、選択肢の中で「判断できない」の割合が最も高くなっている回答はみられない。



< 市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野の現状評価 >

○満足度と不満足度の位置関係（全ての設問項目）

・「十分満たされている」「まあまあ満たされている」を合わせた満足度が平均以上かつ「あまり満たされていない」「ほとんど満たされていない」を合わせた不満足度が平均以下のエリアである“取組評価の高いグループ”には、子育て・教育・男女共同参画に関する分野から1項目、産業・雇用に関する分野から3項目、防災・健康・福祉に関する分野から9項目、文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野から3項目、市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野から3項目が含まれている。



【◆：子育て・教育・男女共同参画分野】

- 1 男女の出会いの場の創出や安心して子どもを産み育てられる環境の整備等により、結婚や出産を希望する若者への支援が図られている。
- 2 保育サービスの充実や育児情報の発信、乳幼児等の医療費助成などにより、安心して子育てができる環境になっている。
- 3 地域と学校の連携により、次代を担う子どもたちの確かな学力と豊かな心を育む教育環境が整っている。
- 4 本に触れる機会や場所の整備などにより、子どもから大人まで幅広い世代の市民が本に親しんでいる。
- 5 性別にかかわらず、仕事と生活が調和した暮らしを送ることができるよう、家庭や職場等で男女共同参画の意識が広がっている。
- 6 結婚・出産・育児期でも働きやすい環境の整備や、能力向上に対する支援の充実などにより、女性活躍できる機会が増えている。

【○：産業・雇用分野】

- 7 農業用施設や魚市場の整備、後継者の育成や経営に対する支援等により、農水畜産業を営む環境が整っている。
- 8 販路拡大や地元での消費拡大、ブランド化の促進等により、地場産品の価値が高まっている。
- 9 放射性物質に対する監視体制が整備され、地場産品の安全情報の発信等により、福島第一原発事故に伴う風評被害が払拭されている。

- 10 IT・テレマーケティングやエネルギーなどで新規の企業立地や新たな産業の形成が進んでいる。
- 11 経営相談や資金支援の充実、技術力の強化、産学官や企業間の連携により、中小企業の活性化が図られている。
- 12 積極的なポートセールスや海外への販路拡大等により、八戸港での貿易が発達になっている。
- 13 起業に関する情報交換や相談体制の充実などにより、新たなビジネスに挑戦できる環境が整っている。
- 14 求人・就職のマッチングやUIJ ターン希望者に対する支援などにより、市内における雇用が増えている。

【▲：防災・健康・福祉分野】

- 15 避難道路や避難所の整備、避難所への物資の備蓄などにより、防災・減災対策の強化が図られている。
- 16 公共施設の改修・改築や民間建造物の耐震化支援等により、市内における建物の安全性が確保されている。
- 17 防潮堤や堤防の整備等により、臨海部や河川における津波対策の強化が図られている。
- 18 LNG（液化天然ガス）の普及や再生可能エネルギーの導入により、災害に強いエネルギー供給体制の構築が図られている。
- 19 小中学校での防災教育や地域での防災訓練などにより、市民の防災意識が高まり、地域における災害の備えが整っている。

※取組評価の高いグループに含まれる項目を 波線 で表示

【▲：防災・健康・福祉分野】

- 20 防災行政無線やほっとスルメール、コミュニティ FM 等により、災害時における広報体制が充実している。
- 21 ドクターカー・ドクターヘリ事業等により救急医療の充実が進むとともに、がん等に対する質の高い医療環境が整っている。
- 22 町内会等と連携した取組により、健康教室などの健康づくり活動や災害時要援護者等の見守り体制の強化等が図られている。
- 23 生活資金等の貸付や就学支援の充実、相談窓口の整備等により、被災者が必要な生活支援を受けられている。
- 24 住宅の再建支援や公営住宅の整備等により、被災者の住宅が確保されている。

【◇：文化・スポーツ・観光・中心市街地分野】

- 25 特色ある伝統文化や地域資源を生かして、市民の文化芸術活動やアートプロジェクトが盛んになっている。
- 26 地元スポーツチームや競技団体、大学等との連携により、市民がスポーツに親しむ環境が整っている。
- 27 屋内スケート場の建設やスケート教室の開催などにより、スケート人口の増加と競技力の向上が図られている。
- 28 観光資源や観光ルートの開発、首都圏等での観光 PR の強化等により、観光地としての八戸の知名度が向上している。
- 29 外国語を含めた観光案内板やパンフレットの整備、市民ガイドの育成等により、当市を訪れる観光客の利便性が高まっている。
- 30 公共空間の整備や民間の再開発・空き店舗対策等により、新たな店舗が出店するなど、中心街の魅力が向上している。
- 31 まち歩きイベントの開催、街なみや歩行空間の整備などにより、中心街に多くの人が集まり、賑わいが創出されている。

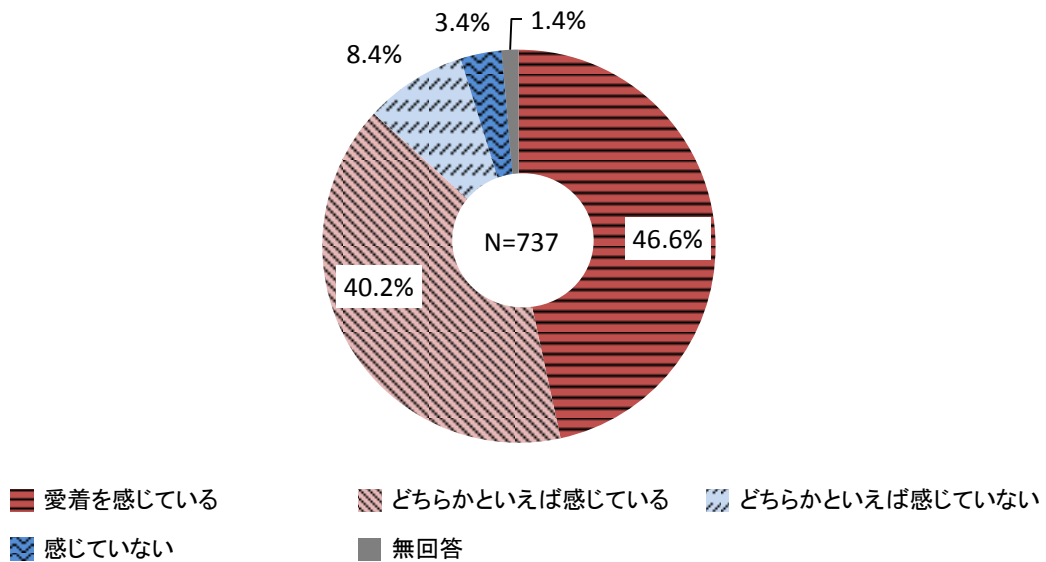
【●：市民活動・行政サービス・広域連携分野】

- 32 地域団体やボランティアの活動が発達し合いながらまちづくりが進められている。
- 33 町内会・自治会への加入が促進され、防犯・防災・環境美化等の地域活動が発達に行われている。
- 34 窓口サービスの向上やコンビニでの住民票等の発行など、行政サービスの利便性が高まっている。
- 35 岩手県北等を含む広域圏において、産業経済や都市サービスの中心としての八戸市の役割が高まっている。
- 36 運行情報の提供や運賃の上限設定などにより、市内外における路線バスの利便性が高まっている。
- 37 医療・防災・観光・文化・スポーツなどの分野において、広域にわたる自治体や住民の連携・交流が盛んになっている。

②八戸市に対する愛着や誇り

○八戸市に対する愛着

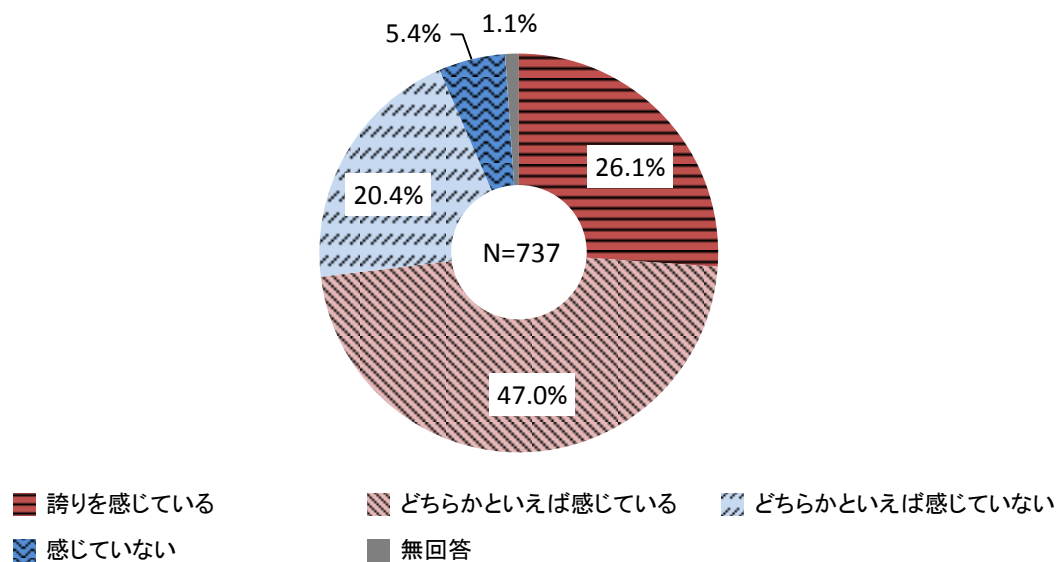
- ・八戸市に対して愛着を感じているかどうかについて、「愛着を感じている」が約 47%、「どちらかといえば感じている」が約 40%で、「愛着を感じている」と「どちらかといえば感じている」を合わせると約 87%となっている。



< 八戸市に対する愛着 >

○八戸市に対する誇り

- ・八戸市に対して誇りを感じているかどうかについて、「誇りを感じている」が約 26%、「どちらかといえば感じている」が約 47%で、「誇りを感じている」と「どちらかといえば感じている」を合わせると約 73%となっている。

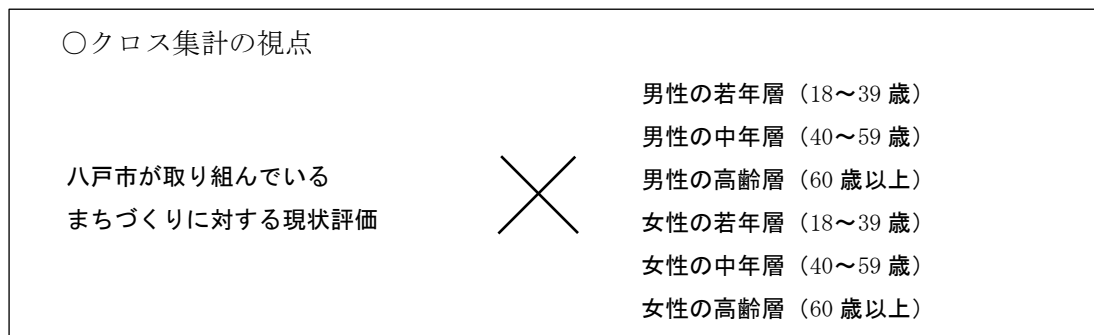


< 八戸市に対する誇り >

3. クロス集計結果

(1) クロス集計の考え方

- ・アンケート調査では、八戸市が取り組んでいるまちづくりに対する現状評価や、八戸市に対する愛着や誇りを把握している。
- ・八戸市が取り組んでいるまちづくりに対する現状評価の回答は、性別や世代によって傾向が異なるものと考えられる。
- ・したがって、計画の進行管理を行っていくうえで、どのような取組によりどの年齢層に効果があったのかを検証するために、以下の区分でクロス集計を行った。なお、年齢層は10～30代を若年層、40～50代を中年層、60代以上を高年齢層としている。

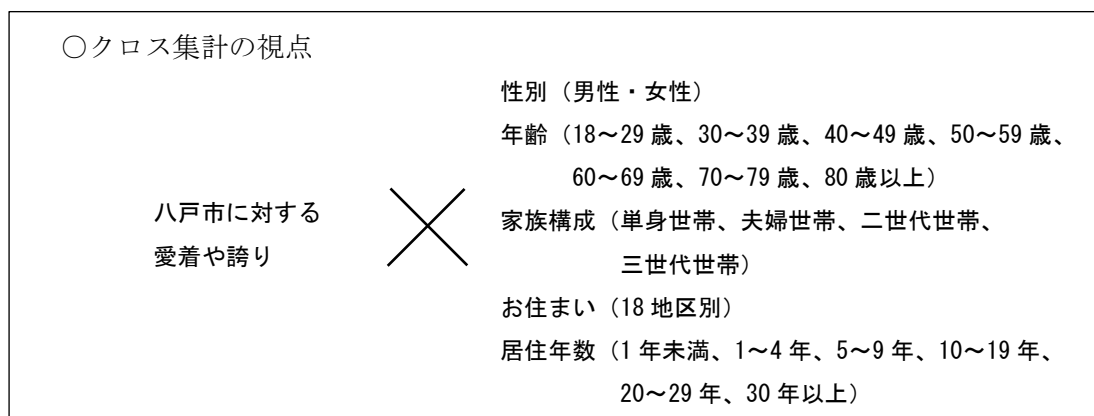


- ・なお、現状評価については、各分野の設問項目（施策・事業）に対する4段階評価の結果を点数化し、性別や世代別の傾向が視覚的に把握できるようにレーダーチャートに整理した。
- ・点数化は以下の考え方で行った。「判断できない」については、評価の対象から外すため無回答と同じ区分とした。

○現状評価の点数化

十分満たされている	・・・	4点
まあまあ満たされている	・・・	3点
あまり満たされていない	・・・	2点
ほとんど満たされていない	・・・	1点
判断できない	・・・	評価なし（無回答と同じ）

- ・一方、八戸市に対する愛着や誇りの回答は地域に対する熟度や地域での経験の質などが影響していることから、性別や年齢、家族構成、お住まい、居住年数等によって傾向が異なるものと考えられる。
- ・したがって、ライフスタイルの違いによって愛着や誇りをどのように感じているのかを検証するために、以下の区分でクロス集計を行った。

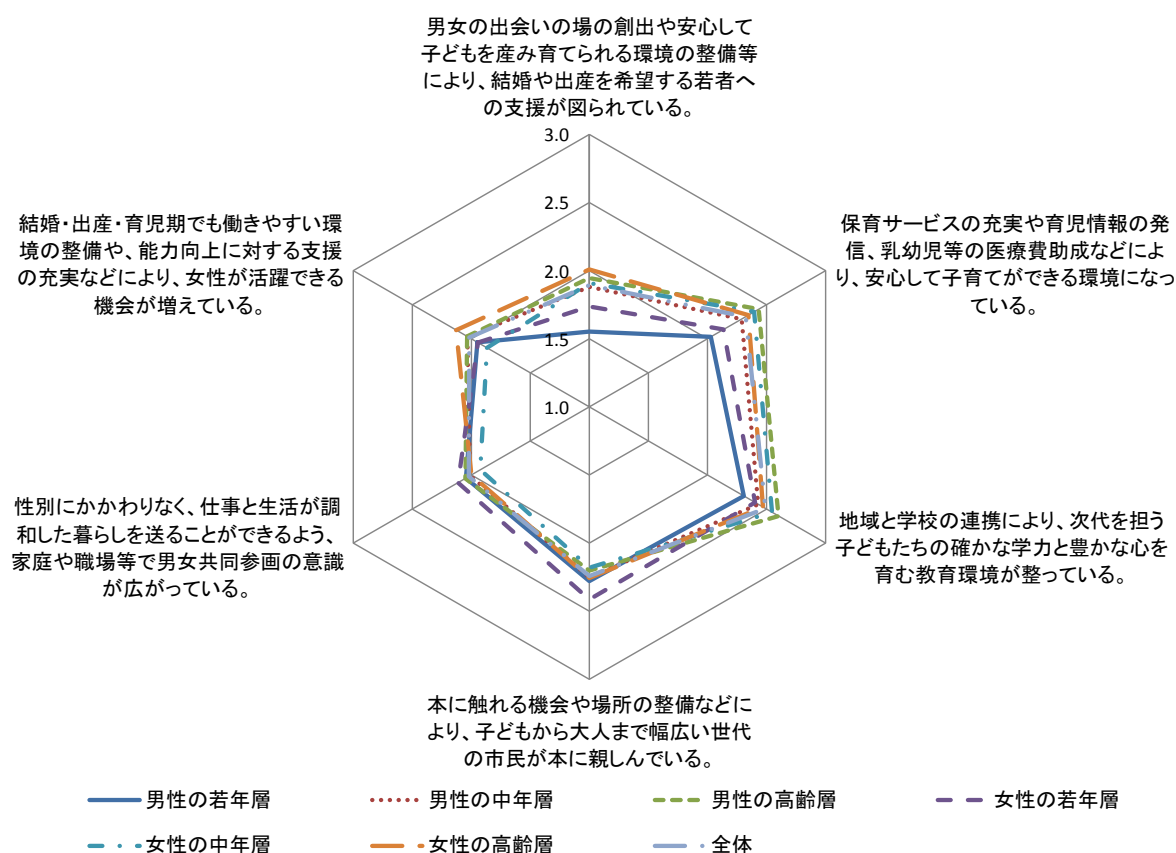


(2) 男女別年齢層別のまちづくりに対する現状評価

○子育て・教育・男女共同参画に関する分野

- ・「男女の出会いの場の創出や安心して子どもを産み育てられる環境の整備等により、結婚や出産を希望する若者への支援が図られている。」の項目は、全体と比べて女性の高齢層以外で現状評価が低い。
- ・一方、「地域と学校の連携により、次代を担う子どもたちの確かな学力と豊かな心を育む教育環境が整っている」の項目は、全体と比べて男女の中年層以下では現状評価が低い、男女の高齢層で現状評価が高い。

設問項目	男 性			女 性			全 体
	若年層	中年層	高齢層	若年層	中年層	高齢層	
男女の出会いの場の創出や安心して子どもを産み育てられる環境の整備等により、結婚や出産を希望する若者への支援が図られている。	1.6	1.9	1.9	1.7	1.9	2.0	1.9
保育サービスの充実や育児情報の発信、乳幼児等の医療費助成などにより、安心して子育てができる環境になっている。	2.0	2.3	2.4	2.1	2.4	2.3	2.3
地域と学校の連携により、次代を担う子どもたちの確かな学力と豊かな心を育む教育環境が整っている。	2.3	2.4	2.6	2.4	2.5	2.5	2.5
本に触れる機会や場所の整備などにより、子どもから大人まで幅広い世代の市民が本に親しんでいる。	2.3	2.3	2.2	2.4	2.2	2.3	2.2
性別にかかわらず、仕事と生活が調和した暮らしを送ることができるよう、家庭や職場等で男女共同参画の意識が広がっている。	2.0	2.0	2.1	2.1	1.9	2.0	2.0
結婚・出産・育児期でも働きやすい環境の整備や、能力向上に対する支援の充実などにより、女性が活躍できる機会が増えている。	1.9	2.0	2.0	1.9	1.9	2.1	2.0

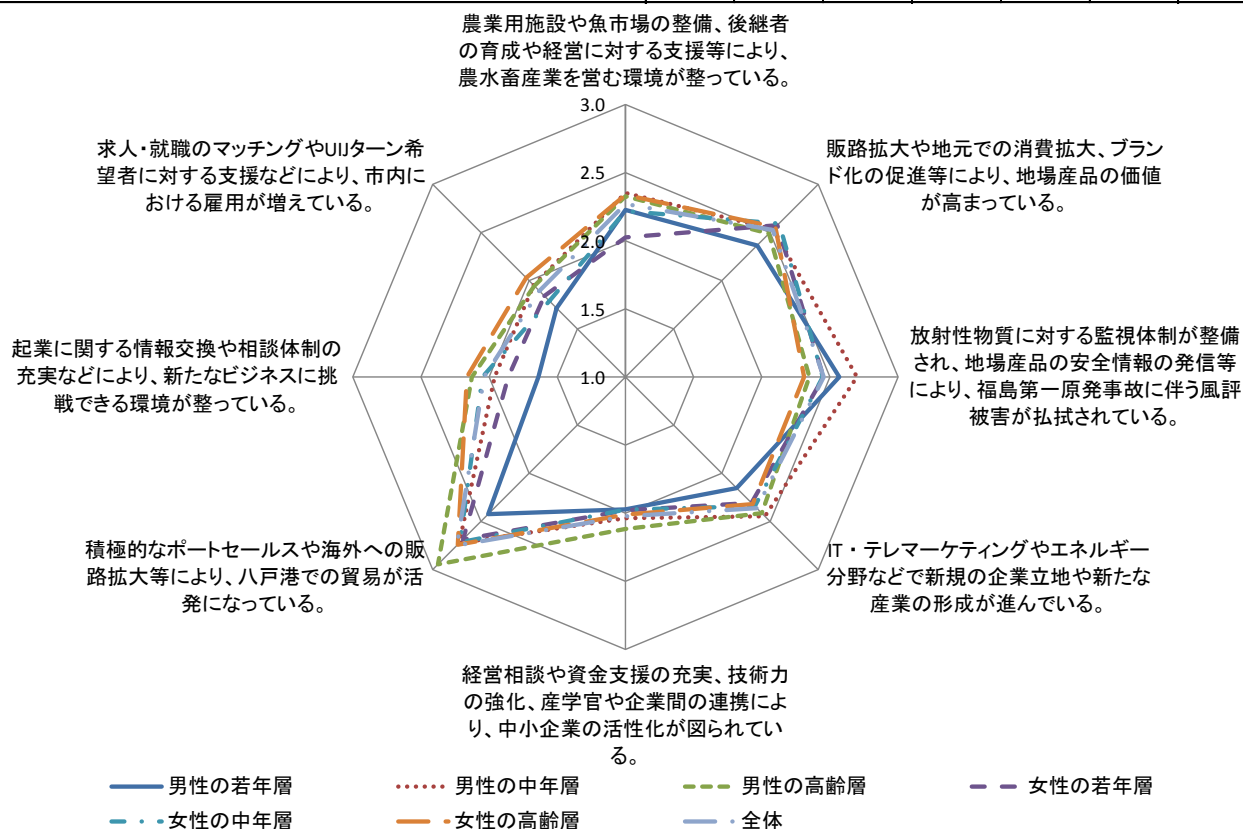


< 子育て・教育・男女共同参画に関する分野の現状評価【年齢層別】 >

○産業・雇用に関する分野

- ・「積極的なポートセールスや海外への販路拡大等により、八戸港での貿易が活発になっている」の項目は、全体に比べると男性の高齢層の現状評価が高いが、他の年齢層の現状評価は低い。
- ・「求人・就職のマッチングやUIJ ターン希望者に対する支援などにより、市内における雇用が増えている」の項目は、男性の中年層以上と女性の高齢層が全体に比べて現状評価が高く、他の年齢層では現状評価が低い。
- ・「起業に関する情報交換や相談体制の充実などにより、新たなビジネスに挑戦できる環境が整っている。」の項目の男性の若年層の現状評価は、全体や他の年齢層の比べて低い。

設問項目	男 性			女 性			全 体
	若年層	中年層	高齢層	若年層	中年層	高齢層	
農業用施設や魚市場の整備、後継者の育成や経営に対する支援等により、農水畜産業を営む環境が整っている。	2.2	2.4	2.3	2.0	2.2	2.3	2.3
販路拡大や地元での消費拡大、ブランド化の促進等により、地場製品の価値が高まっている。	2.4	2.5	2.5	2.6	2.6	2.6	2.5
放射性物質に対する監視体制が整備され、地場製品の安全情報の発信等により、福島第一原発事故に伴う風評被害が払拭されている。	2.6	2.7	2.3	2.5	2.4	2.3	2.5
IT・テレマーケティングやエネルギー分野などで新規の企業立地や新たな産業の形成が進んでいる。	2.2	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.4
経営相談や資金支援の充実、技術力の強化、産学官や企業間の連携により、中小企業の活性化が図られている。	2.0	2.0	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0
積極的なポートセールスや海外への販路拡大等により、八戸港での貿易が活発になっている。	2.4	2.7	2.9	2.7	2.7	2.7	2.8
起業に関する情報交換や相談体制の充実などにより、新たなビジネスに挑戦できる環境が整っている。	1.6	2.0	2.1	1.9	2.1	2.2	2.0
求人・就職のマッチングやUIJターン希望者に対する支援などにより、市内における雇用が増えている。	1.7	2.0	1.9	1.8	1.8	2.0	1.9

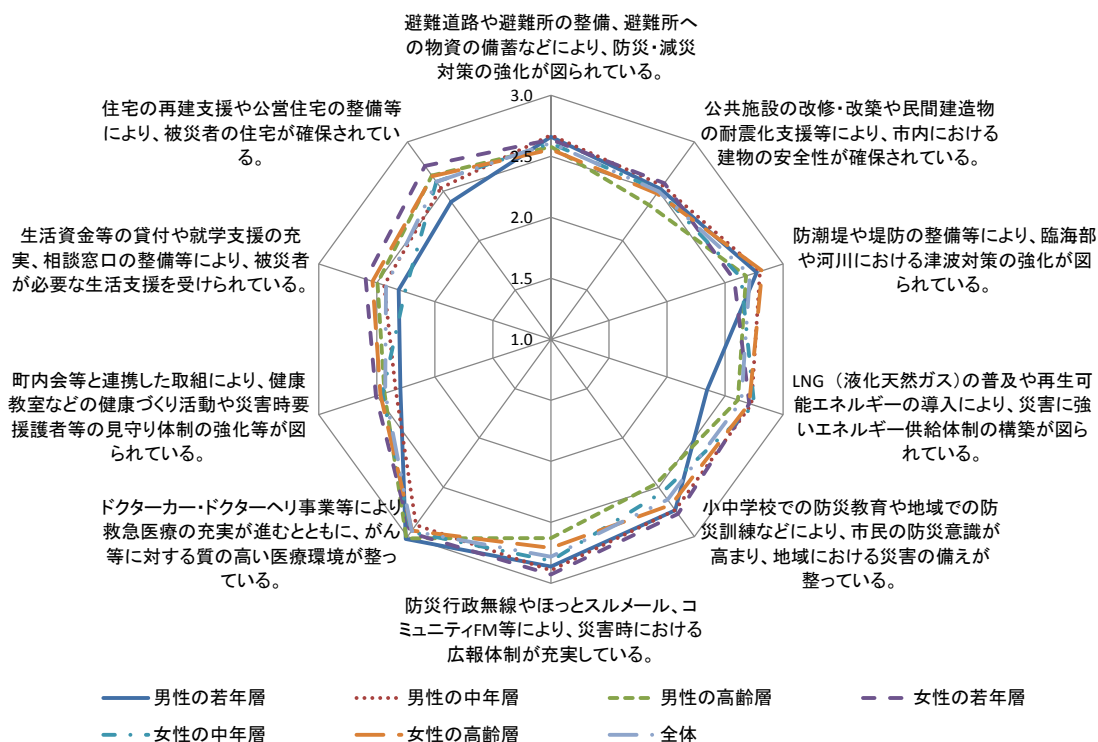


< 産業・雇用に関する分野の現状評価【年齢層別】 >

○防災・健康・福祉に関する分野

- ・「ドクターカー・ドクターヘリ事業等により救急医療の充実が進むとともに、がん等に対する質の高い医療環境が整っている」の項目は、全体と比べ、すべての年齢層で評価が高い。
- ・「避難道路や避難所の整備、避難所への物資の備蓄などにより、防災・減災対策の強化が図られている。」の項目は、全体と比べて、男性の中年層以下で現状評価が高くなっている。
- ・「LNG(液化天然ガス)の普及や再生可能エネルギーの導入により、災害に強いエネルギー供給体制の構築が図られている。」の項目は、男性の若年層で全体よりも現状評価が低い。

設問項目	男 性			女 性			全 体
	若年層	中年層	高齢層	若年層	中年層	高齢層	
避難道路や避難所の整備、避難所への物資の備蓄などにより、防災・減災対策の強化が図られている。	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6
公共施設の改修・改築や民間建造物の耐震化支援等により、市内における建物の安全性が確保されている。	2.5	2.6	2.4	2.6	2.5	2.5	2.5
防潮堤や堤防の整備等により、臨海部や河川における津波対策の強化が図られている。	2.8	2.8	2.7	2.6	2.6	2.8	2.7
LNG(液化天然ガス)の普及や再生可能エネルギーの導入により、災害に強いエネルギー供給体制の構築が図られている。	2.3	2.7	2.6	2.7	2.8	2.7	2.6
小中学校での防災教育や地域での防災訓練などにより、市民の防災意識が高まり、地域における災害の備えが整っている。	2.7	2.7	2.5	2.8	2.6	2.7	2.6
防災行政無線やほっとスルメール、コミュニティFM等により、災害時における広報体制が充実している。	2.9	2.9	2.6	2.9	2.8	2.7	2.8
ドクターカー・ドクターヘリ事業等により救急医療の充実が進むとともに、がん等に対する質の高い医療環境が整っている。	3.0	2.9	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9
町内会等と連携した取組により、健康教室などの健康づくり活動や災害時要援護者等の見守り体制の強化等が図られている。	2.3	2.3	2.4	2.5	2.5	2.5	2.4
生活資金等の貸付や就学支援の充実、相談窓口の整備等により、被災者が必要な生活支援を受けられている。	2.3	2.4	2.5	2.6	2.3	2.5	2.4
住宅の再建支援や公営住宅の整備等により、被災者の住宅が確保されている。	2.4	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	2.6

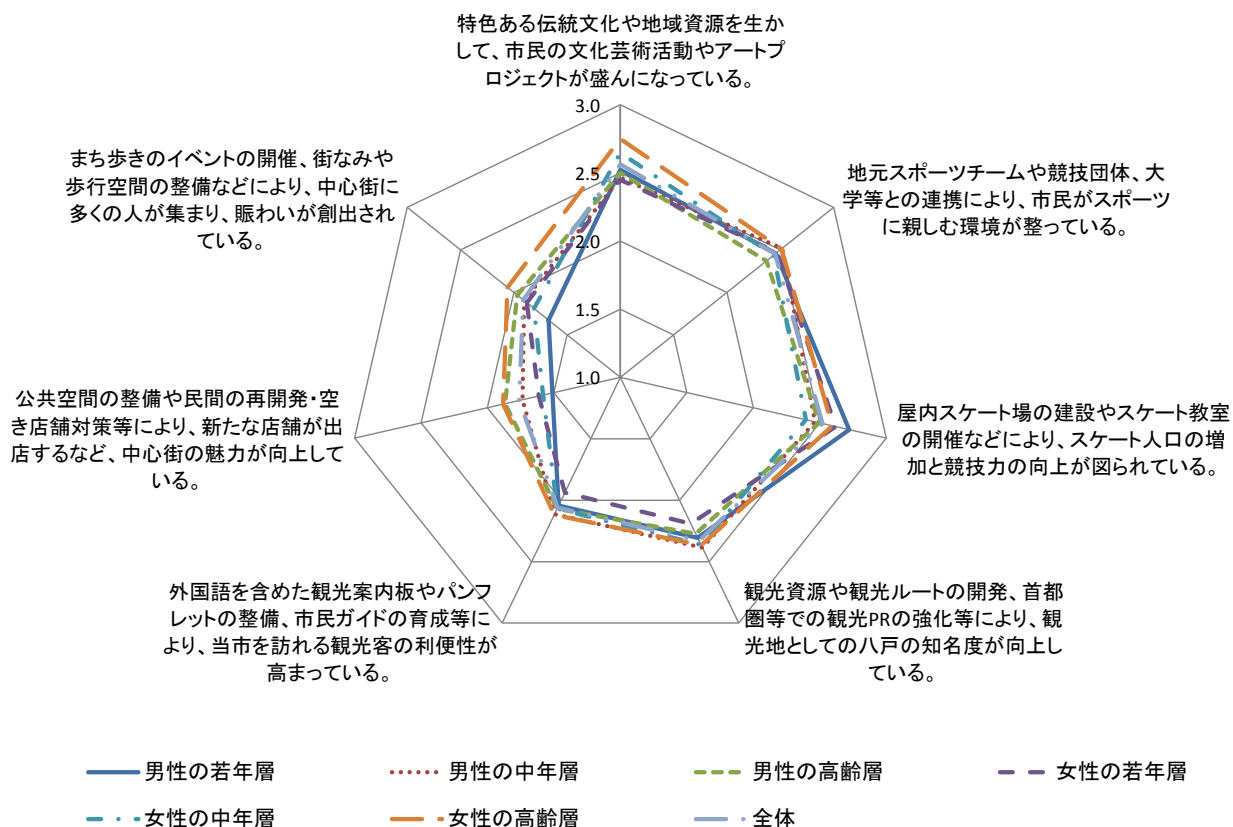


< 防災・健康・福祉に関する分野の現状評価【年齢層別】 >

○文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野

- ・「特色ある伝統文化や地域資源を生かして、市民の文化芸術活動やアートプロジェクトが盛んになっている」の項目は、全体に比べて女性の中年層以上で現状評価が高い。
- ・一方、「公共空間の整備や民間の再開発・空き店舗対策等により、新たな店舗が出店するなど、中心街の魅力が向上している」の項目は、全体に比べて男女の中年層以下で評価が低い。
- ・「屋内スケート場の建設やスケート教室の開催などにより、スケート人口の増加と競技力の向上が図られている。」の項目は、全体に比べて、男女の若年層と女性の高齢層の現状評価が高く、特に男性の若年層が最も高い。

設問項目	男 性			女 性			全 体
	若年層	中年層	高齢層	若年層	中年層	高齢層	
特色ある伝統文化や地域資源を生かして、市民の文化芸術活動やアートプロジェクトが盛んになっている。	2.5	2.5	2.5	2.4	2.6	2.8	2.6
地元スポーツチームや競技団体、大学等との連携により、市民がスポーツに親しむ環境が整っている。	2.5	2.5	2.4	2.5	2.4	2.5	2.5
屋内スケート場の建設やスケート教室の開催などにより、スケート人口の増加と競技力の向上が図られている。	2.7	2.5	2.5	2.6	2.4	2.6	2.5
観光資源や観光ルートの開発、首都圏等での観光PRの強化等により、観光地としての八戸の知名度が向上している。	2.3	2.4	2.3	2.2	2.4	2.4	2.3
外国語を含めた観光案内板やパンフレットの整備、市民ガイドの育成等により、当市を訪れる観光客の利便性が高まっている。	2.0	2.1	2.1	1.9	2.1	2.1	2.1
公共空間の整備や民間の再開発・空き店舗対策等により、新たな店舗が出店するなど、中心街の魅力が向上している。	1.5	1.7	1.9	1.6	1.6	1.9	1.8
まち歩きイベントの開催、街なみや歩行空間の整備などにより、中心街に多くの人が集まり、賑わいが創出されている。	1.7	1.9	2.0	1.9	1.8	2.1	1.9

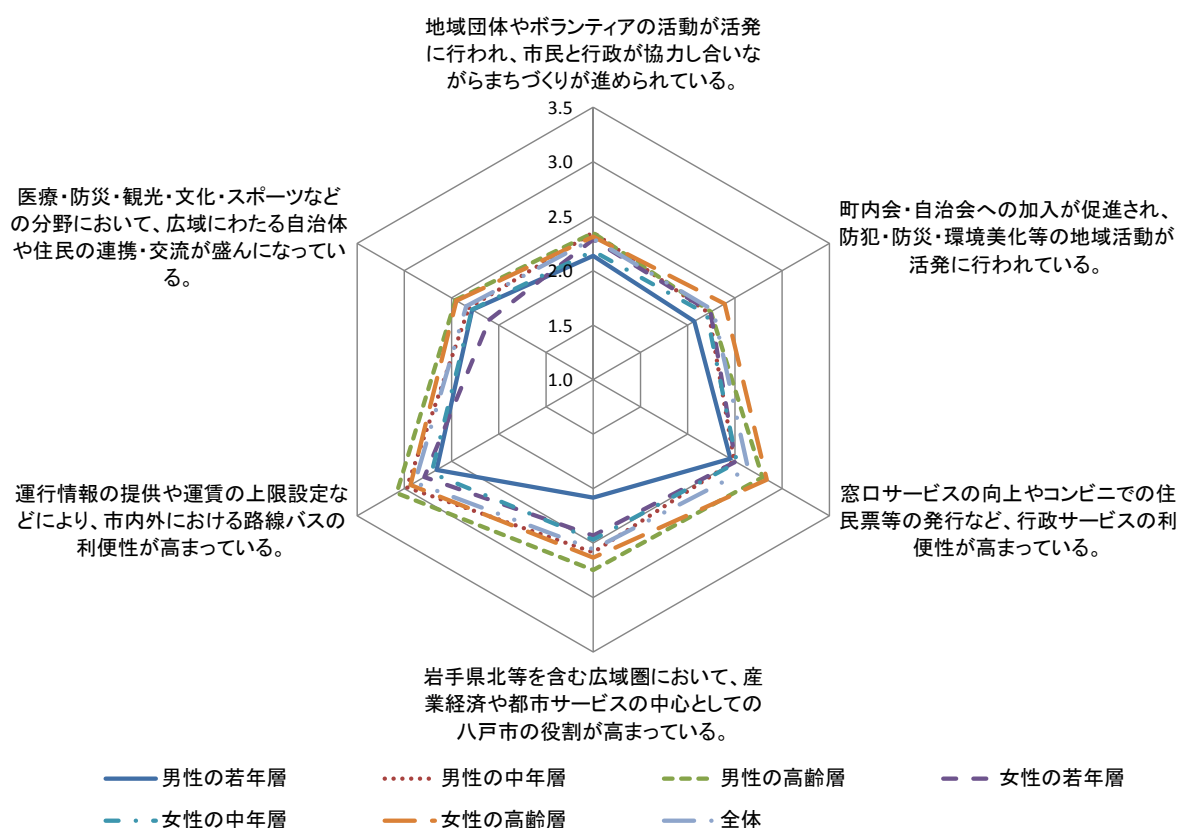


< 文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野の現状評価【年齢層別】 >

○市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野

- ・「運行情報の提供や運賃の上限設定などにより、市内における路線バスの利便性が高まっている」の項目は、全体に比べて、男性の中年層と男女の高齢層で現状評価が高い。
- ・「地域団体やボランティアの活動が活発に行われ、市民と行政が協力し合いながらまちづくりが進められている」の項目は、全体に比べて、男性の若年層と女性の中年層の現状評価が低い。
- ・すべての項目で、男女の若年層は全体を下回っている。特に、男性の若年層は「医療・防災・観光・文化・スポーツなどの分野において、広域にわたる自治体や住民の連携・交流が盛んになっている」以外の項目で現状評価が最も低い。

設問項目	男 性			女 性			全 体
	若年層	中年層	高齢層	若年層	中年層	高齢層	
地域団体やボランティアの活動が活発に行われ、市民と行政が協力し合いながらまちづくりが進められている。	2.1	2.4	2.3	2.3	2.2	2.3	2.3
町内会・自治会への加入が促進され、防犯・防災・環境美化等の地域活動が活発に行われている。	2.1	2.2	2.2	2.2	2.2	2.4	2.3
窓口サービスの向上やコンビニでの住民票等の発行など、行政サービスの利便性が高まっている。	2.5	2.5	2.8	2.5	2.5	2.8	2.6
岩手県北等を含む広域圏において、産業経済や都市サービスの中心としての八戸市の役割が高まっている。	2.1	2.6	2.7	2.4	2.5	2.6	2.6
運行情報の提供や運賃の上限設定などにより、市内外における路線バスの利便性が高まっている。	2.7	3.0	3.1	2.8	2.7	2.9	2.9
医療・防災・観光・文化・スポーツなどの分野において、広域にわたる自治体や住民の連携・交流が盛んになっている。	2.3	2.3	2.5	2.1	2.3	2.4	2.3



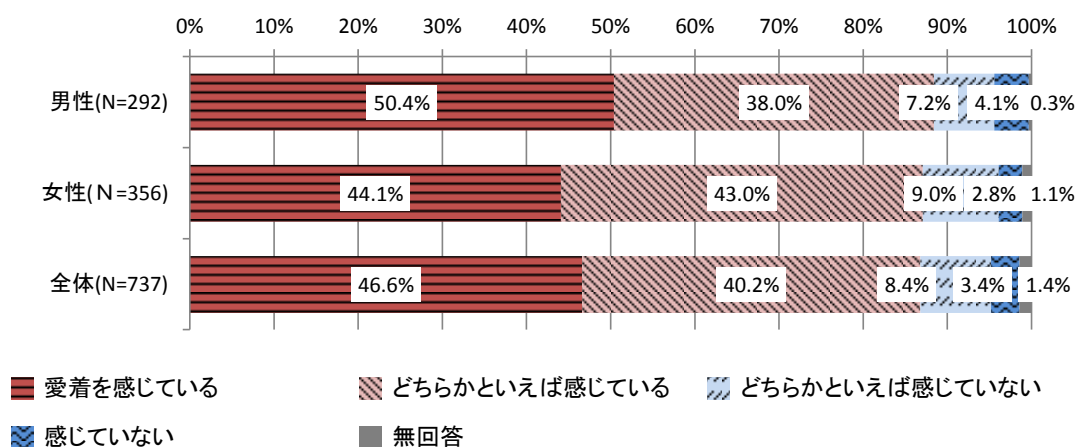
< 市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野の現状評価【年齢層別】 >

(3) 属性別の八戸市に対する愛着や誇り

①八戸市に対する愛着

○性別

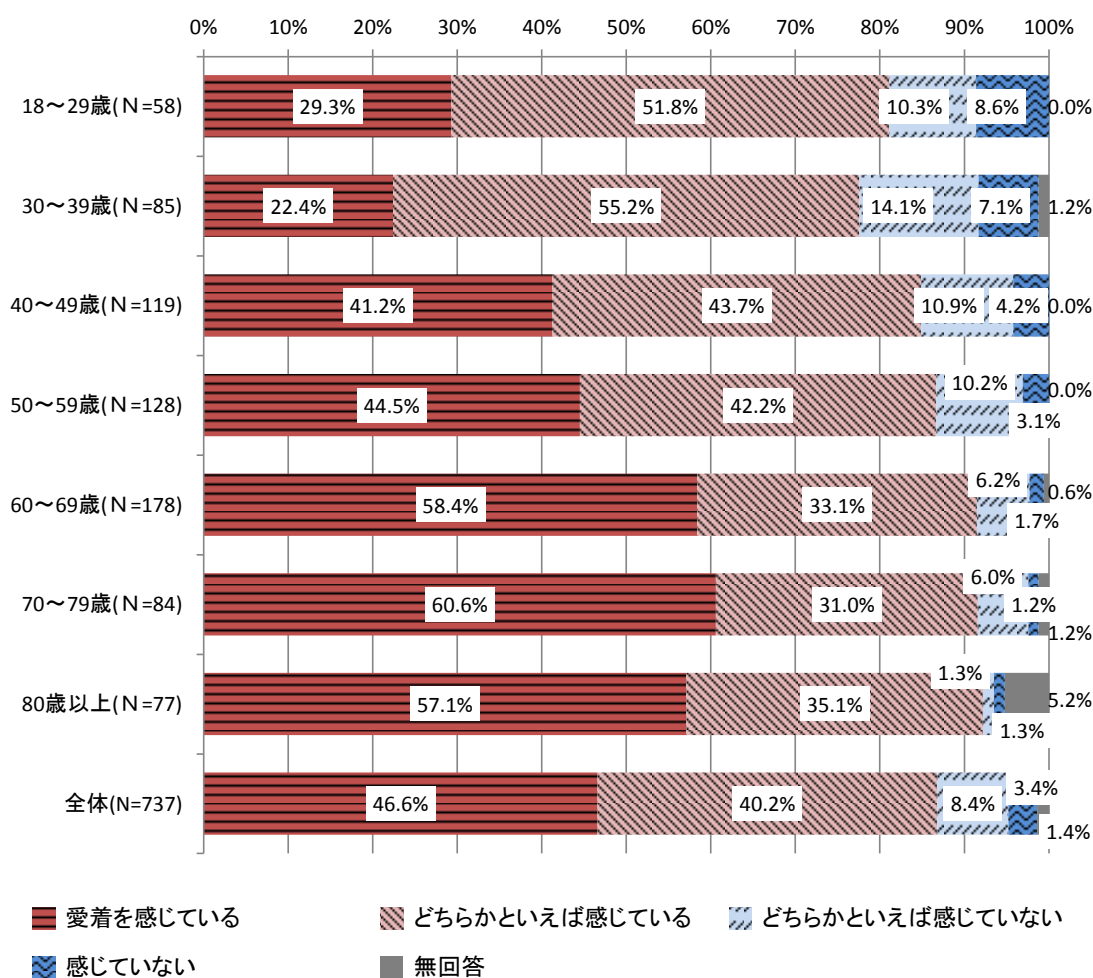
・「愛着を感じている」と回答した割合をみると、男性が約 50%、女性が約 44%となっている。



< 八戸市に対する愛着【性別】 >

○年齢別

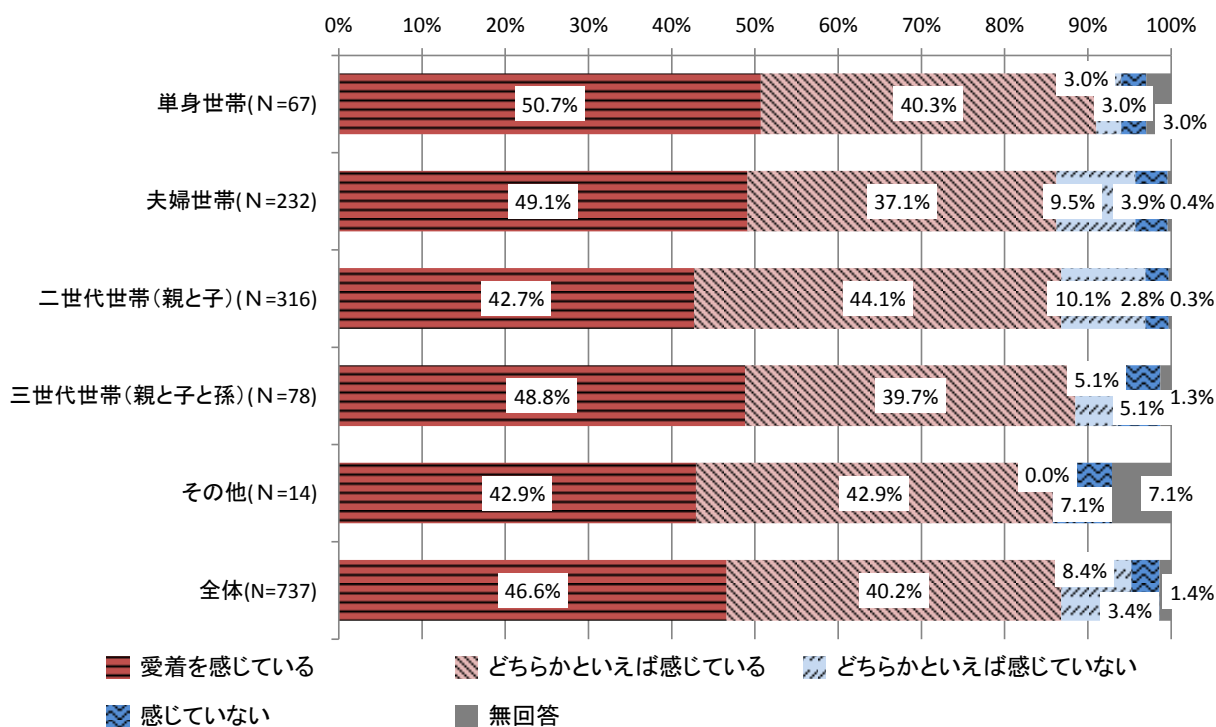
・「愛着を感じている」と回答した割合が高い年齢をみると、「70～79 歳」で約 61%と最も高く、次いで、「60～69 歳」が約 58%、「80 歳以上」で約 57%となっている。



< 八戸市に対する愛着【年齢】 >

○家族構成

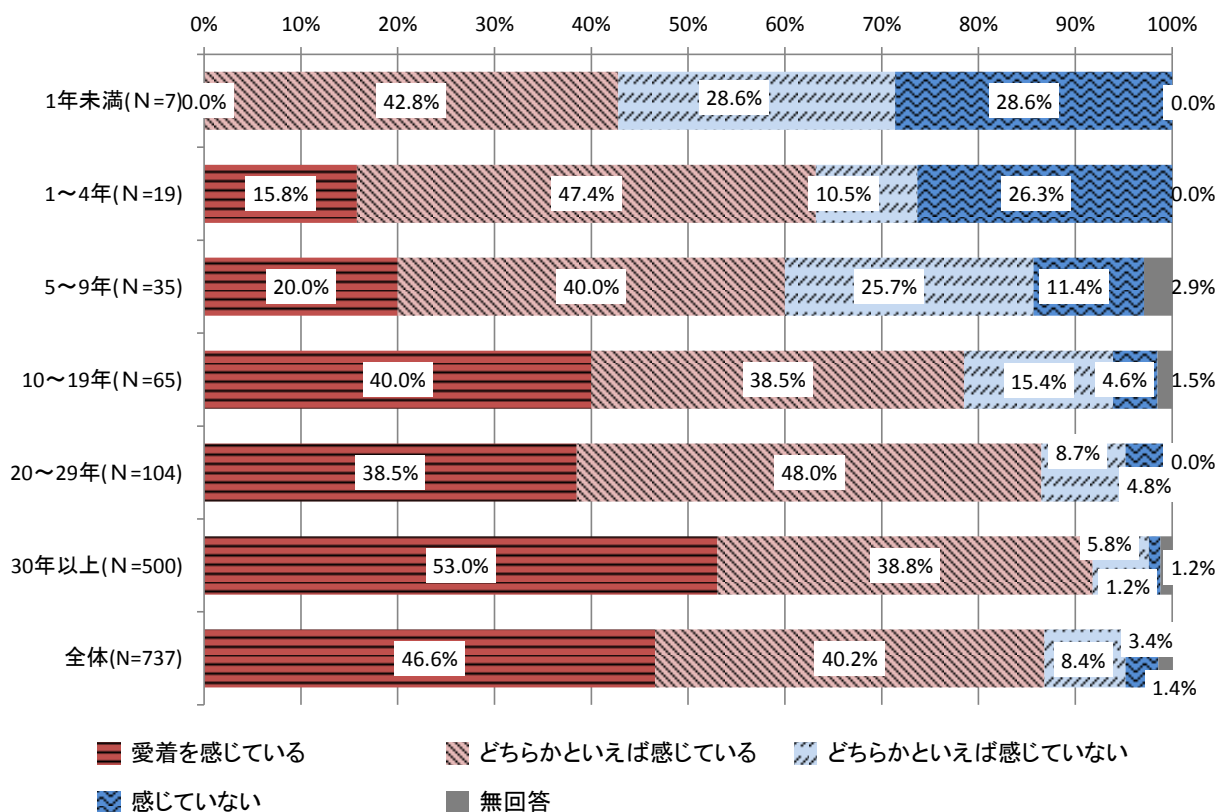
- ・「愛着を感じている」と回答した割合が高い家族構成をみると、「単身世帯」で約 51%と最も高く、次いで、「夫婦世帯」と「三世代世帯（親と子と孫）」でそれぞれ約 49%となっている。



< 八戸市に対する愛着【家族構成】 >

○居住年数

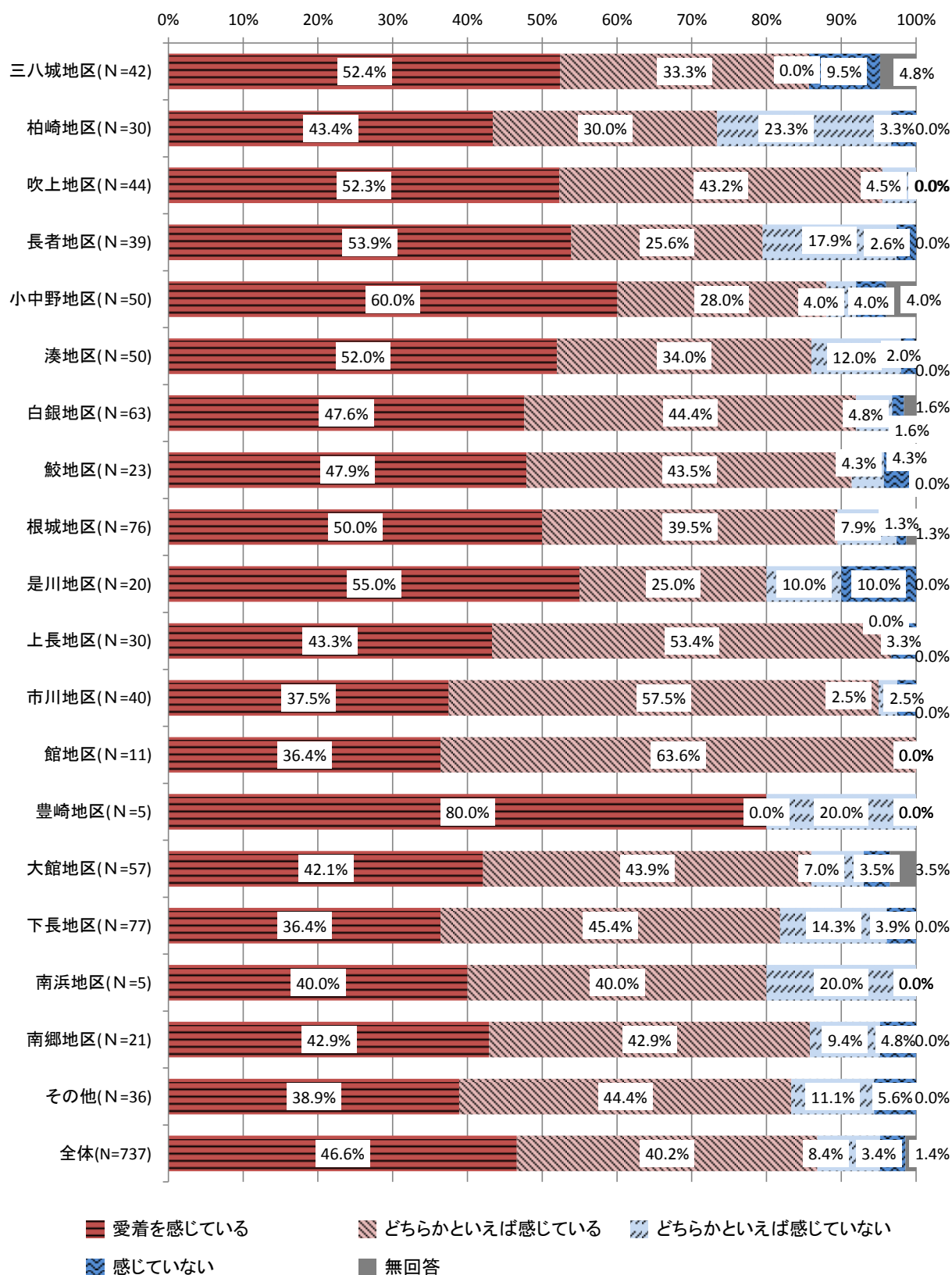
- ・「愛着を感じている」と回答した割合が高い居住年数をみると、「30 年以上」で約 53%と最も高く、次いで、「10～19 年」で約 40%、「20～29 年」で約 39%となっている。



< 八戸市に対する愛着【居住年数】 >

○住まいの地区

・「愛着を感じている」と回答した割合が高い住まいをみると、「豊崎地区」で約 80%と最も高く、次いで、「小中野地区」が約 60%、「是川地区」で約 55%となっている。

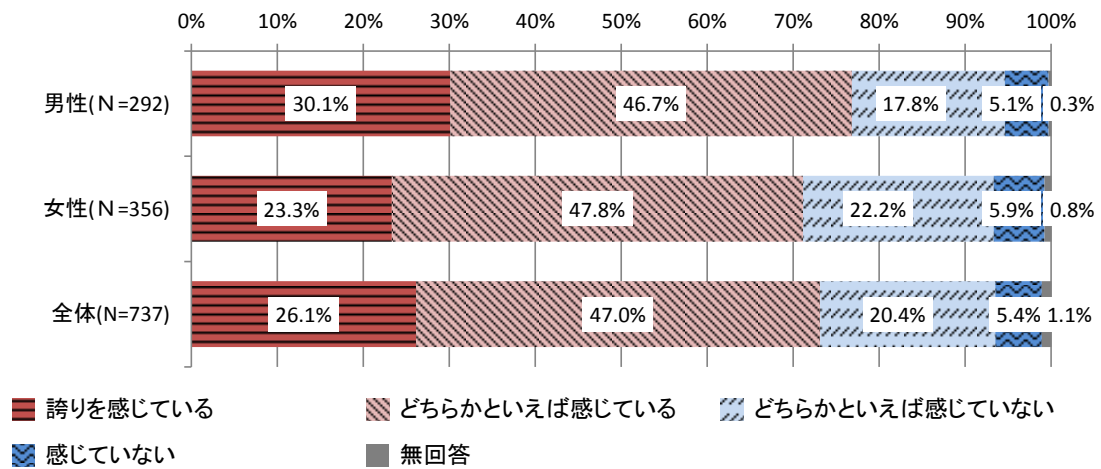


< 八戸市に対する愛着【住まい】 >

②八戸市に対する誇り

○性別

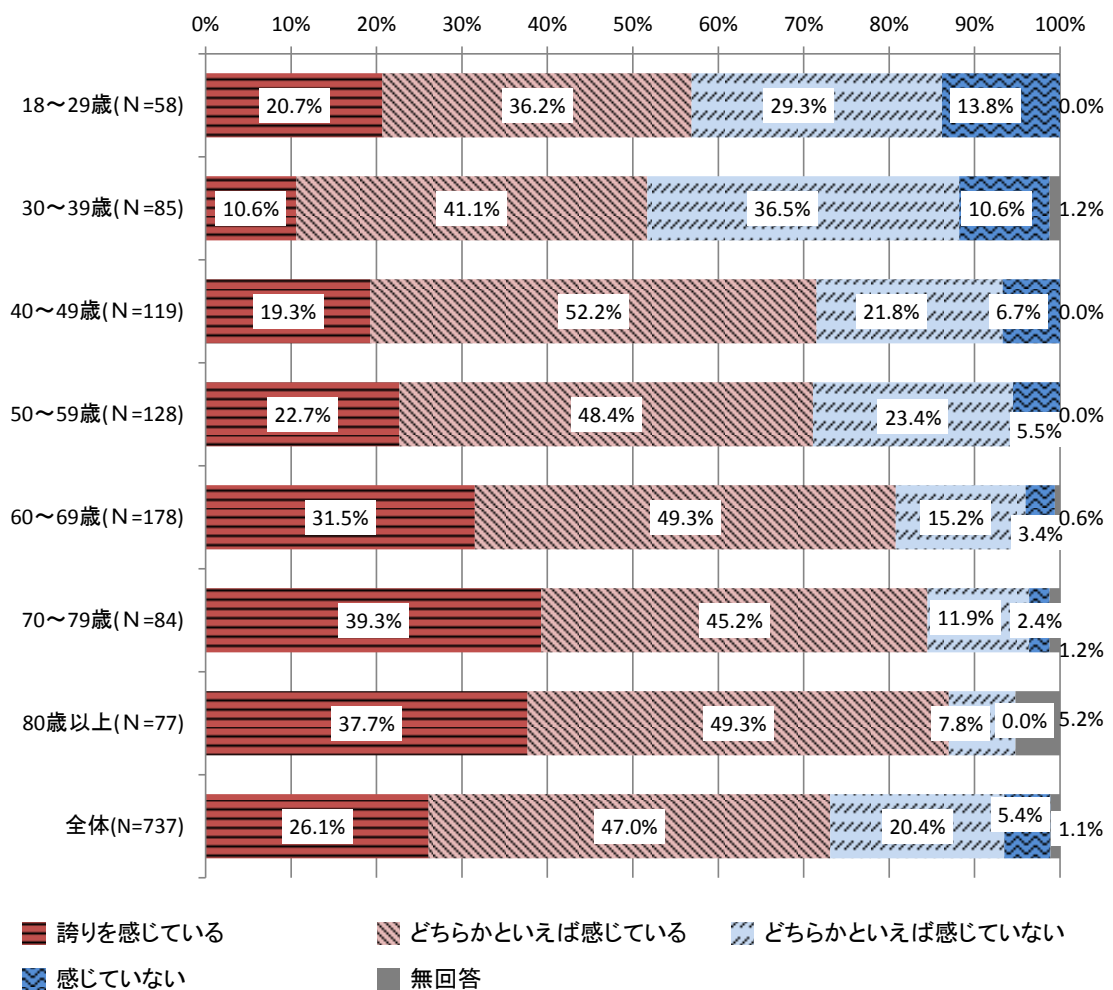
・「誇りを感じている」と回答した割合をみると、男性が約 30%、女性が約 23%となっている。



< 八戸市に対する誇り【性別】 >

○年齢別

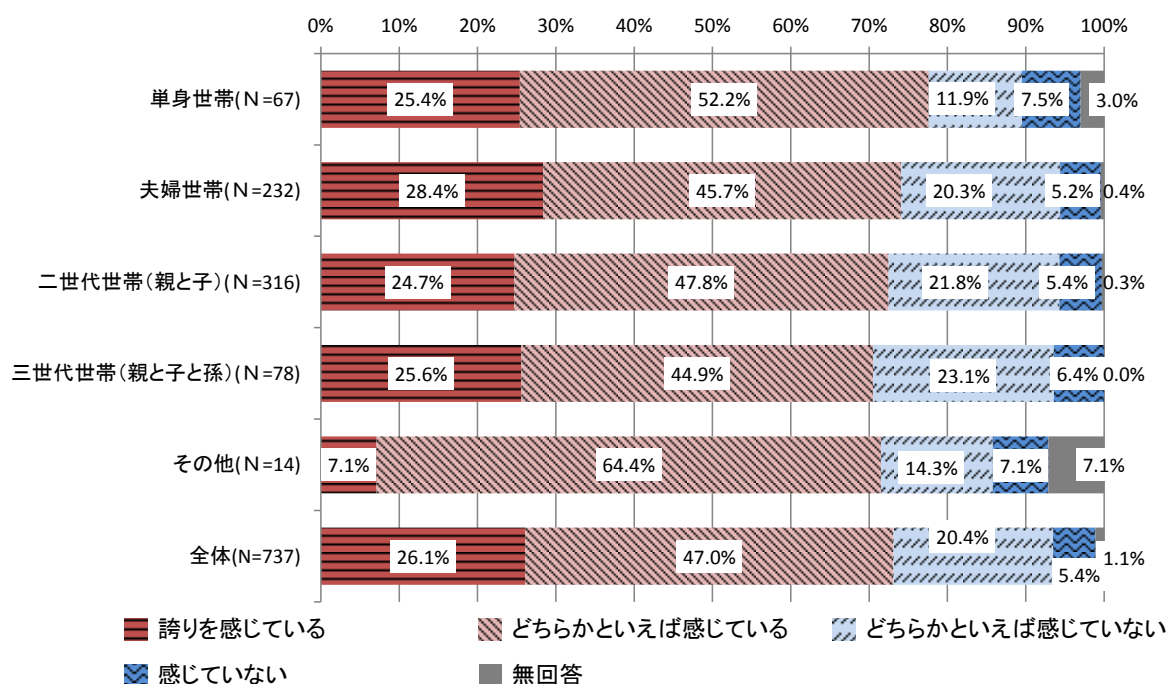
・「誇りを感じている」と回答した割合が高い年齢をみると、「70～79 歳」で約 39%と最も高く、次いで、「80 歳以上」で約 38%、「60～69 歳」で約 32%となっている。



< 八戸市に対する誇り【年齢】 >

○家族構成

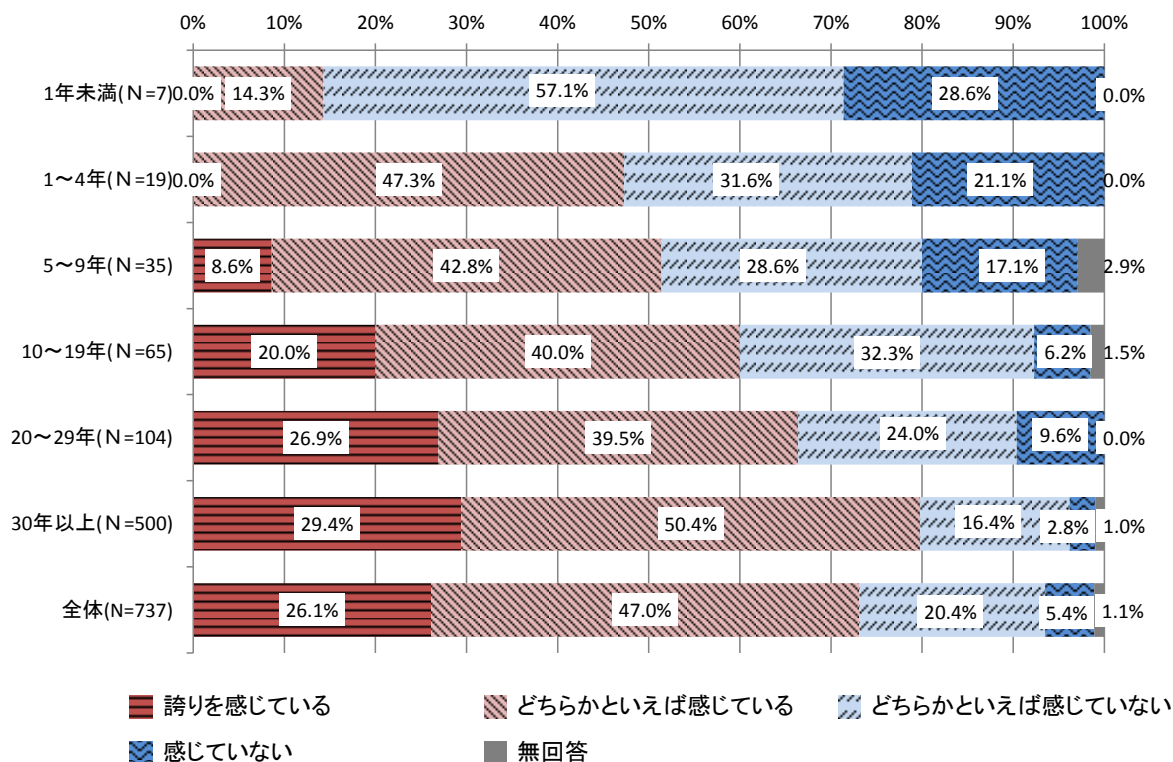
- ・「誇りを感じている」と回答した割合が高い家族構成をみると、「夫婦世帯」で約 28%と最も高く、次いで、「三世帯世帯（親と子と孫）」で約 26%となっている。



< 八戸市に対する誇り【家族構成】 >

○居住年数

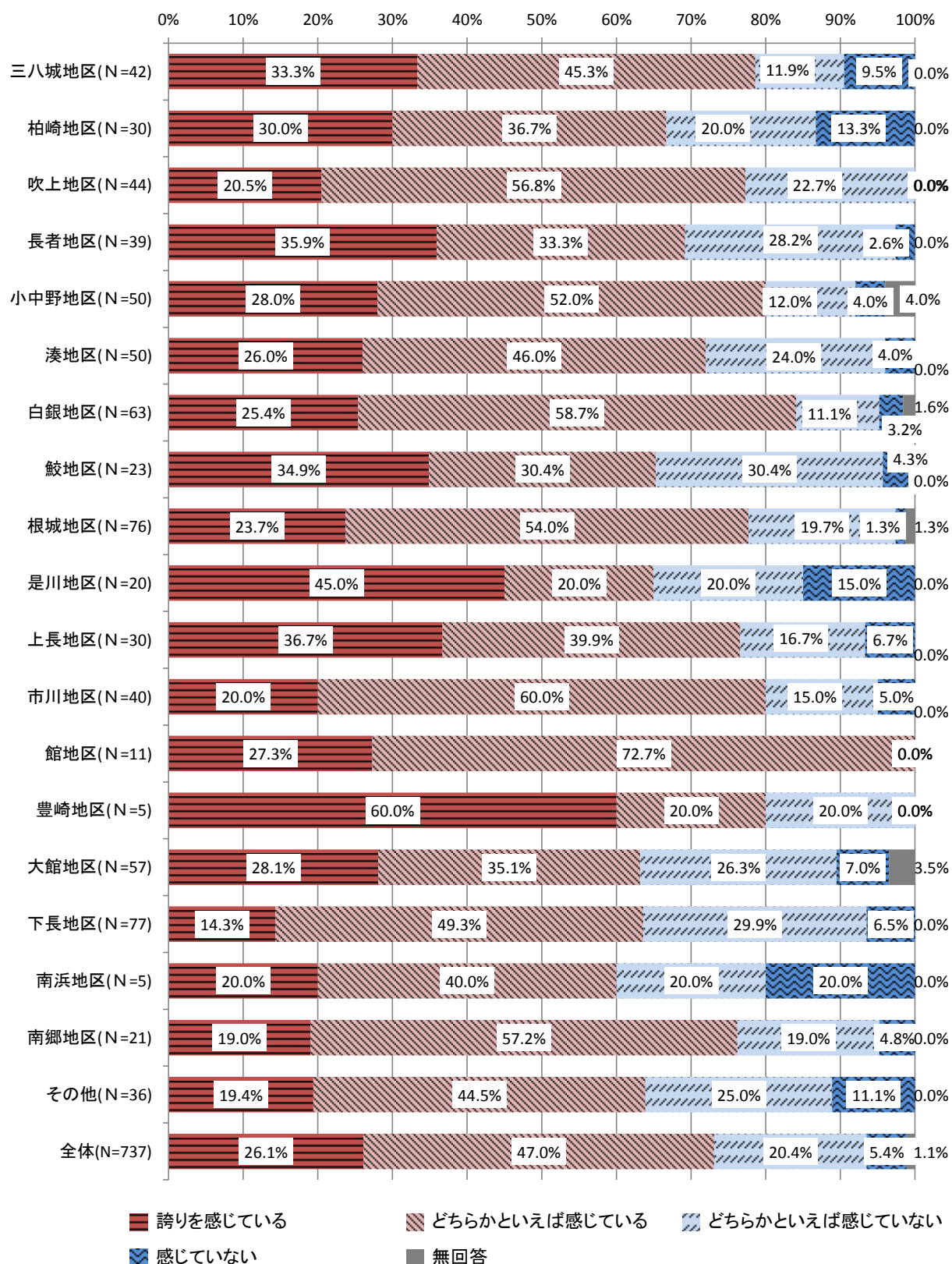
- ・「誇りを感じている」と回答した割合が高い居住年数をみると、「30 年以上」で約 29%と最も高く、次いで、「20～29 年」で約 27%、「10～19 年」で約 20%となっている。



< 八戸市に対する誇り【居住年数】 >

○住まいの地区

・「誇りを感じている」と回答した割合が高い住まいをみると、「豊崎地区」で約 60%と最も高く、次いで、「是川地区」で約 45%、「上長地区」が約 37%となっている。



< 八戸市に対する誇り【住まい】 >

4. 自由回答の結果

(1) 自由回答の掲載基準

- ・可能な限り原文どおり掲載している。なお、以下のような内容は修正、削除等を行っている。

- 市政やまちづくりに関連しない内容
- 誹謗中傷に関する内容
- 個人や団体の広報、宣伝又は営利を目的とした内容
- 思想や宗教に関わる内容
- 個人や団体が特定できるような内容
- 誤字・脱字

(2) 分類・整理の方法

- ・以下の①～②の方法により、自由回答の整理を行った。

①市民アンケート調査の設問項目の枠組みで整理

- ・自由回答については、それぞれの設問項目（第6次八戸市総合計画で重点的かつ分野横断的に推進する施策に関する設問）毎に分類・整理した。なお、調査票と同様にそれぞれの設問項目を子育て・教育・男女共同参画、産業・雇用、防災・健康・福祉、文化・スポーツ・観光・中心市街地、市民活動・行政サービス・広域連携の各分野に整理している。
- ・また、第6次八戸市総合計画で重点的かつ分野横断的に推進する施策と関連性が低いと思われる意見は、類似した意見毎に小項目を設定して整理している。

②同一回答者の自由回答を分割

- ・同一回答者が複数の内容を回答している場合は、内容を分割して、それぞれが該当する項目に分類・整理した。

(3) 分類・整理の結果

- ・自由回答を分類・整理した結果、その他を除くと「文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野」の自由回答が最も多く135件となった。次いで、「子育て・教育・男女共同参画に関する分野」の自由回答が74件となった。

自由回答の分類大項目	回答数（件）
子育て・教育・男女共同参画に関する分野	74
産業・雇用に関する分野	45
防災・健康・福祉に関する分野	29
文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野	135
市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野	40
その他	123
合 計	446

(4) 主な意見

＜分野１：子育て・教育・男女共同参画に関する分野＞

- 子育て世代に優しいまちづくりをして欲しい。子どもを産み、育てたくなるような地域になって欲しい。
- 出産するのに病院が少ない。もっと産みやすい環境にして欲しい。
- 子どもが遊べる施設・場所が少ない。
- 子どもの医療費助成を拡大して欲しい。
- 小中学校の校舎や校庭などの教育施設を適正な保守管理を行うための基準やマニュアルの作成が必要であると思う。
- ボランティアによる勉強支援など、低所得者世帯の子どもの学業をサポートする取組が必要ではないか。
- 就学後の子どもの放課後の預け先の充実。習い事もできて遅くまで預かってくれる所があると助かる。
- 八戸市に公立大学が欲しい。
- 図書館や児童館の開館時間の延長を検討すべきだと思う。
- 子どもがいても働ける場所を増やして欲しい。

＜分野２：産業・雇用に関する分野＞

- 南郷のワインに向けての取り組み、ツムラとの合同研究による漢方薬製薬栽培への取り組みがうまくいくように願っている。
- ニュース番組を見ていたら、『八戸前沖サバ』の認知度調査を東京駅前で実施していたが、ほとんどの方が知らないと答えていた。前沖サバのPR活動が行き届いていないように感じた。
- 卒業しても、賃金が安く、地元に残れず県外を求める。企業の誘致を増やし安定した生活ができるようにして欲しい。
- 八戸は国内競争で生産性を上げるより国際貿易で活路を見出す必要があるが、英語力のある人材が豊富にあるとは言えない。
- 起業の相談できるところやセミナーを増やして欲しい。
- 若者が地元で働き、生活できる環境を整えて欲しい。
- 首都圏と比べると賃金が低く、不安定な職種が多い。所得の向上と雇用の安定化を図って欲しい。
- 都会などに就職した若い人がUターンしても働けるような、働きたいと思えるような魅力的なまちになれば良い。

＜分野３：防災・健康・福祉に関する分野＞

- 公共施設の耐震化が少しずつ進められているが予算の都合などであまり捗っていない印象がある。
- 平日に全市一斉で市、学校、地域、企業参加の防災訓練を、数年に一回行えないか。
- 避難場所や避難経路などが分かり易くなるよう、防災マップの周知や案内板の設置を進めて欲しい。
- 医療体制の充実をもっとアピールした方が良いと思う。
- 高齢者の一人住まいの家庭が多くなっているので、見守り活動を進めてはどうか。

＜分野４：文化・スポーツ・観光・中心市街地に関する分野＞

- 新しい美術館の建設や公会堂の改修など文化施設の整備を進めて欲しい。
- アーティスト等がコンサートをできる会場が欲しい。
- お祭りの山車が大きすぎて一部の場所でしか全体を見られないのが残念である。
- 市民が気軽に運動したり、スポーツに親しめる場所や施設が不足していると感じている。
- もっと市をあげてフリースタイルやヴァンラーレを応援する環境を作っていくべきではないか。

- 屋内スケート場の運営も、スケートだけではなく、色々なイベント、ライブ等を開催し県内外から人を呼び込めるようにするなど、有意義に使えるものをつくって欲しい。
- スケートの競技人口が減少している中で、屋内スケート場の建設は市民のためになるのでしょうか。維持費等にかかなりの負担が掛かると思う。
- 観光に関して、計画を作ってもっと戦略的に実施すべき。場当たりになっような印象を受ける。
- 八戸には潜在的な観光資源(食、文化、景観等)が多いと思うので、観光商品化を進め、積極的にPRして欲しい。
- 観光客と触れる機会の多いタクシードライバーが、観光情報(八食、朝市、博物館など営業日、定休日等)を提供できるようにした方がいいと思う。
- 中心街に魅力を感じないため、行く機会が減っている。魅力的な店舗の出店やイベントの開催などにより、賑わいを創出して欲しい。
- なぜ中心街だけにイベントを集中させたり、お金を使うのか。
- まちなかに学生が少ないので、中心街にキャンパスがあれば良い。
- 中心街活性化について、10～20代の市民をターゲットにどのようなことを行っているか知りたい。お金を落とすのは30代以降の市民や観光客だが、賑やかさ、エネルギーは若い人間がいるかどうかだと思う。
- 八戸中心街へ行きたいという気持ちがあっても、駐車場などを考えると、無料駐車場の郊外へということも少なくない。

＜分野5：市民活動・行政サービス・広域連携に関する分野＞

- 八戸のまちづくりについて、関心のある人とそうでない人の意識の開きが大きいと思う。盛り上がっている人は積極的にまちづくりに関わっているが、全く関心のない人は中心街に行きもしないし、用がない限りは八戸市の情報を得ようとしません。
- 出来るだけ多く市民の声を聞き、市民と共にまちづくりを進めるべきと思う。
- 町内会の会合は老人が多く、若者がいない中で決め事をするため、年寄りの言動に偏る。
- もっと八戸市の予定を市民にわかりやすく知らせて欲しい。
- 「八戸」を離れた方や、出身者の方々に今一度「八戸」の魅力を聞いて、もっともっと「八戸」の良い所を再確認していただき、東北、全国と発信できたら良い。みんなが住み良い街、また帰りたくなるような故郷と思えるような街になって欲しい。
- 今の私たちの次の世代を担うであろう若い世代の者たちが、現在の八戸市をどう思って、未来の八戸市に何を望んで、八戸市にどうなって欲しいかなどを汲み取り、実現可能レベルでの基盤整備が早急に必要と考える。
- 土曜日や祝日の前日などに中心街から各方面の深夜バスの運行をお願いしたい。
- せっかく八戸線という鉄道が通っているのに、各駅の周りに何もなくて、地元の人々も不便だと思う。電車をもっと利用できるようなまちづくりが必要だと思う。
- バスに乗って料金の掲示板を見たり、小銭を用意したり、回数券も一枚ずつ切り離したりと不便。また、乗り継ぎ割引もない八戸では乗りかえしていると結構なバス代になる。ICカードを乗り降りの時かざすだけで便利である。
- ノンステップバスの導入やバス停への椅子の設置など、高齢者がバスを利用しやすいようにして欲しい。
- 八戸駅について、駐車スペースの拡大や広場やトイレの建設など、八戸の規模に相応しい駅前の整備を進めて欲しい。
- 八戸市ではシニアボランティア等で活動するとポイントがたまり商品券等に交換できる制度があるが、近隣市町村に拡大できないか。

「市民アンケート調査」ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃より市政へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

当市では、今後、進行が予想される人口減少や少子高齢化といった厳しい社会情勢の中にあっても、課題や困難を乗り越え、明るい未来を描き、住民満足度の高い地域を創造していくため、平成28年度を初年度とする第6次八戸市総合計画を策定しました。

今後、この総合計画に沿って、様々な分野で施策を展開してまいります。中でも重点的かつ分野横断的に推進する施策について、市民の皆様のお考えやご意見をお伺いし、施策の進行管理の基礎資料として活用させていただくため、市民アンケート調査を実施することといたしました。

今回の市民アンケート調査は、当市にお住まいの18歳以上の方から無作為で抽出した1,000名の方と、市政モニター100名の方、総合計画の策定に携わった32名の方をお願いしております。また、ご回答の内容は、すべて統計的に処理し、プライバシーの保護はもとより、他の目的に利用することは一切ございませんので、ご協力いただきますようお願いいたします。

平成28年1月 八戸市長 小林 眞

- このアンケート調査は、**平成28年2月18日（木）まで**に同封の返信用封筒で返送（切手不要）してください。
- 調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
八戸市総合政策部政策推進課（中野・川村）
〒031-8686 八戸市内丸一丁目1-1
（電話）43-2111（内線 2013） （FAX）47-1485
E-mail:seisaku@city.hachinohe.aomori.jp

ご記入にあたってのお願い

- 封筒の宛先に書かせていただいた宛名のご本人がお答えください。
- 質問ごとに、あてはまる選択肢に○を付けてください。

(記入例)

問1 下の表の設問項目ごとに、現状評価について、ア～オの選択肢の中から、あてはまるものを一つずつ選んで○を付けてください。

現状評価 (ア～オの一つに○)		現状評価				
		十分満たされている	まあまあ満たされている	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	判断できない
設問項目 八戸市が「こうなっていると良い」と思われる状態						
子育て・教育・男女共同参画						
1	男女の出会いの場の創出や安心して子どもを産み育てられる環境の整備等により、結婚や出産を希望する若者への支援が図られている。	ア	イ	ウ	エ	○オ
2	保育サービスの充実や育児情報の発信、乳幼児等の医療費助成などにより、安心して子育てができる環境になっている。	○ア	イ	ウ	エ	オ
(省略)						
37	医療・防災・観光・文化・スポーツなどの分野において、広域にわたる自治体や住民の連携・交流が盛んになっている。	ア	○イ	ウ	エ	オ

問2 下の項目について、ア～エの選択肢の中から、あてはまるものを一つずつ選んで○を付けてください。

(1) あなたは八戸市に対して愛着を感じていますか。

- ア. 愛着を感じている
- イ. どちらかといえば感じている
- ウ. どちらかといえば感じていない
- エ. 感じていない

1. 八戸市のまちづくりについてお聞きします

問1 八戸市のまちづくりについて、現状をどのように評価していますか。下の表の設問項目（八戸市が「こうなっていると良い」と思われる状態）ごとに、現状評価について、ア～オの選択肢の中から、あてはまるものを一つずつ選んで○を付けてください。

現状評価 設問項目 八戸市が「こうなっていると良い」と思われる状態		現状評価 (ア～オの一つに○)				
		十分満たされている	まあまあ満たされている	あまり満たされていない	ほとんど満たされていない	判断できない
子育て・教育・男女共同参画						
1	男女の出会いの場の創出や安心して子どもを産み育てられる環境の整備等により、結婚や出産を希望する若者への支援が図られている。	ア	イ	ウ	エ	オ
2	保育サービスの充実や育児情報の発信、乳幼児等の医療費助成などにより、安心して子育てができる環境になっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
3	地域と学校の連携により、次代を担う子どもたちの確かな学力と豊かな心を育む教育環境が整っている。	ア	イ	ウ	エ	オ
4	本に触れる機会や場所の整備などにより、子どもから大人まで幅広い世代の市民が本に親しんでいる。	ア	イ	ウ	エ	オ
5	性別にかかわらず、仕事と生活が調和した暮らしを送ることができるよう、家庭や職場等で男女共同参画の意識が広がっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
6	結婚・出産・育児期でも働きやすい環境の整備や、能力向上に対する支援の充実などにより、女性が活躍できる機会が増えている。	ア	イ	ウ	エ	オ
産業・雇用						
7	農業用施設や魚市場の整備、後継者の育成や経営に対する支援等により、農水畜産業を営む環境が整っている。	ア	イ	ウ	エ	オ
8	販路拡大や地元での消費拡大、ブランド化の促進等により、地場産品の価値が高まっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
9	放射性物質に対する監視体制が整備され、地場産品の安全情報の発信等により、福島第一原発事故に伴う風評被害が払拭されている。	ア	イ	ウ	エ	オ
10	IT・テレマーケティングやエネルギー分野などで新規の企業立地や新たな産業の形成が進んでいる。	ア	イ	ウ	エ	オ
11	経営相談や資金支援の充実、技術力の強化、産学官や企業間の連携により、中小企業の活性化が図られている。	ア	イ	ウ	エ	オ

設問項目 八戸市が「こうなっていると良い」と思われる状態		現状評価		現状評価 (ア～オの一つに○)				
		十分満 たされて いる	まあま あ満たさ れている	あまり満 たされて いない	ほとん ど満たさ れていな い	判 断で きな い		
12	積極的なポートセールスや海外への販路拡大等により、八戸港での貿易が活発になっている。	ア	イ	ウ	エ	オ		
13	起業に関する情報提供や相談体制の充実などにより、新たなビジネスに挑戦できる環境が整っている。	ア	イ	ウ	エ	オ		
14	求人・就職のマッチングやUIJ ターン希望者に対する支援などにより、市内における雇用が増えている。	ア	イ	ウ	エ	オ		
防災・健康・福祉								
15	避難道路や避難所の整備、避難所への物資の備蓄などにより、防災・減災対策の強化が図られている。	ア	イ	ウ	エ	オ		
16	公共施設の改修・改築や民間建築物の耐震化支援等により、市内における建物の安全性が確保されている。	ア	イ	ウ	エ	オ		
17	防潮堤や堤防の整備等により、臨海部や河川における津波対策の強化が図られている。	ア	イ	ウ	エ	オ		
18	LNG（液化天然ガス）の普及や再生可能エネルギーの導入により、災害に強いエネルギー供給体制の構築が図られている。	ア	イ	ウ	エ	オ		
19	小中学校での防災教育や地域での防災訓練などにより、市民の防災意識が高まり、地域における災害の備えが整っている。	ア	イ	ウ	エ	オ		
20	防災行政無線やほっとスルメール、コミュニティFM等により、災害時における広報体制が充実している。	ア	イ	ウ	エ	オ		
21	ドクターカー・ドクターヘリ事業等により救急医療の充実が進むとともに、がん等に対する質の高い医療環境が整っている。	ア	イ	ウ	エ	オ		
22	町内会等と連携した取組により、健康教室などの健康づくり活動や災害時要援護者等の見守り体制の強化等が図られている。	ア	イ	ウ	エ	オ		
23	生活資金等の貸付や就学支援の充実、相談窓口の整備等により、被災者が必要な生活支援を受けられている。	ア	イ	ウ	エ	オ		
24	住宅の再建支援や公営住宅の整備等により、被災者の住宅が確保されている。	ア	イ	ウ	エ	オ		
文化・スポーツ・観光・中心市街地								
25	特色ある伝統文化や地域資源を生かして、市民の文化芸術活動やアートプロジェクトが盛んになっている。	ア	イ	ウ	エ	オ		
26	地元スポーツチームや競技団体、大学等との連携により、市民がスポーツに親しむ環境が整っている。	ア	イ	ウ	エ	オ		

現状評価 設問項目 八戸市が「こうなっていると良い」と思われる状態	現状評価 (ア～オの一つに○)				
	十分満 たされて いる	まあま あ満たさ れている	あまり満 たされて いない	ほとん ど満たさ れていな い	判 断で き な い
27 屋内スケート場の建設やスケート教室の開催などにより、スケート人口の増加と競技力の向上が図られている。	ア	イ	ウ	エ	オ
28 観光資源や観光ルートの開発、首都圏等での観光PRの強化等により、観光地としての八戸の知名度が向上している。	ア	イ	ウ	エ	オ
29 外国語を含めた観光案内版やパンフレットの整備、市民ガイドの育成等により、当市を訪れる観光客の利便性が高まっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
30 公共空間の整備や民間の再開発・空き店舗対策等により、新たな店舗が出店するなど、中心街の魅力が向上している。	ア	イ	ウ	エ	オ
31 まち歩きイベントの開催、街なみや歩行空間の整備などにより、中心街に多くの人が集まり、賑わいが創出されている。	ア	イ	ウ	エ	オ
市民活動・行政サービス・広域連携					
32 地域団体やボランティアの活動が活発に行われ、市民と行政が協力しあいながらまちづくりが進められている。	ア	イ	ウ	エ	オ
33 町内会・自治会への加入が促進され、防犯・防災・環境美化等の地域活動が活発に行われている。	ア	イ	ウ	エ	オ
34 窓口サービスの向上やコンビニでの住民票等の発行など、行政サービスの利便性が高まっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
35 岩手県北等を含む広域圏において、産業経済や都市サービスの中心としての八戸市の役割が高まっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
36 運行情報の提供や運賃の上限設定などにより、市内外における路線バスの利便性が高まっている。	ア	イ	ウ	エ	オ
37 医療・防災・観光・文化・スポーツなどの分野において、広域にわたる自治体や住民の連携・交流が盛んになっている。	ア	イ	ウ	エ	オ

問2 あなたは八戸市に対して愛着や誇りを感じていますか。下の2つの項目について、ア～エの選択肢の中から、あてはまるものを一つずつ選んで○を付けてください。

(1) あなたは八戸市に対して愛着を感じていますか。

- ア. 愛着を感じている
- イ. どちらかといえば感じている
- ウ. どちらかといえば感じていない
- エ. 感じていない

(2) あなたは八戸市に対して誇りを感じていますか。

- ア. 誇りを感じている
- イ. どちらかといえば感じている
- ウ. どちらかといえば感じていない
- エ. 感じていない

問3 この調査でお聞きしたことのほか、今後の八戸市のまちづくりについて、ご意見・ご提案がありましたら、下の自由記入欄にご自由にご記入ください。

<自由記入欄>

2. あなた自身のことについておたずねします

※調査結果を統計的に分析するために必要となりますので、必ずご記入ください。

問4 あなたの性別、年齢、家族構成、お住まいの状況、職業についてお聞きします。下の表のあてはまる番号に○を付けてください。

性 別	1. 男 2. 女
年 齢	1. 18～29歳 2. 30～39歳 3. 40～49歳 4. 50～59歳 5. 60～69歳 6. 70～79歳 7. 80歳以上
家族構成	1. 単身世帯 2. 夫婦世帯 3. 二世世代世帯（親と子） 4. 三世世代世帯（親と子と孫） 5. その他（ ）
お住まい	1. 三八城地区 2. 柏崎地区 3. 吹上地区 4. 長者地区 5. 小中野地区 6. 湊地区 7. 白銀地区 8. 鮫地区 9. 根城地区 10. 是川地区 11. 上長地区 12. 市川地区 13. 館地区 14. 豊崎地区 15. 大館地区 16. 下長地区 17. 南浜地区 18. 南郷地区 19. お住まいの地区名がわからない場合は、町内名をお書きください （ ）
八戸市（※） にお住 いの年数	1. 1年未満 2. 1～4年 3. 5～9年 4. 10～19年 5. 20～29年 6. 30年以上 ※旧南郷村での居住年数も含みます
職 業	1. 農林畜産業 2. 漁業 3. 会社員・会社役員 4. 自営業 5. 公務員 6. 団体職員 7. パート・アルバイト 8. 家事専業 9. 学生 10. 無職 11. その他（ ）

アンケートにご協力くださりまして、誠にありがとうございました